

具氏博物學

須川賢久譯

四

成七

成七

1  
286  
4



明=叔1  
286  
4

東京  
其氏  
博物學  
卷之四  
田中芳男  
校

其氏博物學卷之四

須川賢各查譯

田中芳男 閱校

第四篇

動物界

上條既ニ宇宙間ハ地球太陽系恆星等ヲ造構セ  
ル物ト其含蓄セル物トヲ包括スルコトヲ論說  
セリ今其宇宙間ハ地球ノミヲ論ズルハ則地  
球中ニハ三界ヲ含有ス礦物界植物界動物界是  
ナリ而シテ礦物植物ノ二界ハ既ニ記載セリ故

博物學

卷之四

動物界

ニ今茲一諸動物ノ含蓄セル處ノ一界ヲ論ヤン  
 夫動物トハ生命ヲ保存シテ常ニ自由ノ運動ヲ  
 爲スヘキ勢力ヲ具有スル物ノ謂ナリ此諸動物  
 ヲ論スル學科ヲ名ツケテ動物總論ト稱ス蓋動  
 物史ニハ驚愕スヘキ奇怪ノ説ヲ比々記載セル  
 モノナリ世人偶然トシテ蜜蜂及蜘蛛ヲ見ハ則  
 之ヲ蠢爾タル蟲類ト思フヘシ然レトモ蜂巢或  
 ハ蛛網等ノ巧エヲ見ルニ及ヒテハ大ニ驚愕ニ  
 堪ヘザル可シ故ニ吾人能ク動物ヲ検査スルト  
 キハ此地球ニ之ニ住スル所ノ物トヲ創造シタ

ル者ノ驚クヘキ精巧及智カヲ感佩セザルヲ得  
 世人諸動物ノ或ハ陸ニ住ミ或ハ水ニ住ミ或ハ  
 高ク空中ニ飛翔スルモノアルコトヲ認知セリ  
 其四足ヲ具シテ陸地ニ住スル動物ヲ四足獸ト  
 名ツケ通常之ヲ毛屬ト稱ス其水ニ住スル動物  
 ヲ總稱シテ魚類ト名ツケ之ヲ考究スル學科ヲ  
 魚學ト云フ其羽翼ヲ具シテ空中ニ飛翔スル所  
 ノ動物ヲ禽類ト名ツケ之ヲ考究スル學科ヲ禽  
 學ト云ヒ又蟲類ヲ考究スル學科ヲ蟲學ト云フ

吾人各種ノ動物ヲ互ニ相比較スレハ其類似カ  
 ル所多キ者アリ或ハ其殊異ナル所多キ者アリ  
 故ニ今豚ト猫トヲ比較スレハ各一頭四足ヲ具  
 有スルヲ見ン然レトモ甲ノ頭ハ長クシテ乙ノ  
 頭ハ圓ナリ且甲ノ足ハ蹄ヲ具ヘシノ足ハ爪ヲ  
 有セリ又犬ト鳥トヲ比較スレハ豚ト猫トノ比  
 較ヨリハ更ニ異ナルアリトス此ニ物ハ各々脚  
 ヲ具ヘテ能ク運動ヲ爲セリ而シテ甲ハ四脚ヲ  
 具ヘ體ヲ被フニ毛ヲ以テスレトモ乙ハ只ニ脚  
 ヲ具ヘ着スルニ羽ヲ以テシテ海鳥ノ如クハ

有名ナルルカシニ氏ハロシタガハル氏又其  
 他以博物學家ハ皆斯ノ如ク諸動物ヲ互ニ相比較  
 シテ遂ニ動物分類ノ良法ヲ考定セリ蓋此法ハ  
 其類似セル處ノ諸動物ヲ收集スルニ在リ故ニ  
 其相類セル處ノ物ハ能ク一目シテ瞭然タラシ  
 メ且其差違アルコトヲ示スモノナリ此法ニ從  
 ヒテ動物ヲ分チ以テ數綱ト爲ス又其綱ヲ分ケ  
 テ目ト爲シ目ヲ分ケテ屬ト爲シ屬ヲ分ケテ種  
 ト爲ス總テ動物分類法ノ旨趣ハ後ニ記載セル  
 處ノ分類法ヲ熟讀セハ容易ニ之ノ理會ニ得ヘ

博物學 卷四 三

動物分類法ハ恰モ諸動物ノ一ノ大ナル欄中ニ  
 集入シ吾人ヲシテ一目瞭然タラシムル爲ニ設  
 シ者ト見做ストキハ則此分類法ノ便利ニシテ  
 且裨益アルコトヲ容易ク了解ス可シ此分類法  
 ヲ學フニハ先其第一區即其綱中ニハ四足獸類  
 アリ其第二區即綱ニハ禽類アリ其第三區即綱  
 ニハ魚類アリト想像シ又精細ニ之ヲ覽閱スレ  
 ハ則最初ニ認知セサル處ノ小區即目アリ蓋此  
 小區ハ熊獅狐犬等ノ如キ食肉ノ動物ヲ一ノ獸

有名ナルルリシニリス氏ハロシクガイル氏及其  
 他ノ博物家ハ皆斯ノ如ク諸動物ヲ互ニ相比較  
 シテ遂ニ動物分類ノ良法ヲ考定セリ蓋此法ハ  
 其類似セル處ノ諸動物ヲ收集スルニ在リ故ニ  
 其相類セル處ノ物ハ能ク一目シテ瞭然タラシ  
 メ且其差違アルコトヲ示スモノナリ此法ニ從  
 ヒテ動物ヲ分チ以テ數綱ト爲ス又其綱ヲ分ケ  
 テ目ト爲シ目ヲ分ケテ屬ト爲シ屬ヲ分ケテ種  
 ト爲ス總テ動物分類法ノ旨趣ハ後ニ記載セル  
 處ノ分類法ヲ熟讀セハ容易ニ之ノ理會シ得ヘ

動物分類法ハ恰モ諸動物ノ一ノ大ナル欄中ニ  
集入レ吾人ヲシテ一目瞭然タラシムル爲ニ設  
レ者ト見做ストキハ則此分類法ノ便利ニシテ  
且裨益アルコトヲ容易ク了解ス可シ此分類法  
ヲ學フニハ先其第一區即其綱中ニハ四足獸類  
アリ其第二區即綱ニハ禽類アリ其第三區即綱  
ニハ魚類アリト想像レ又精細ニ之ヲ覽閱スレ  
ハ則最初ニ認知セサル處ノ小區即目アリ蓋此  
小區ハ熊、獅、狐、犬等ノ如キ食肉ノ動物ヲ一ノ獸

圈内ニ收集シタルモノト想像シ尚能ク之ヲ覽  
閱スルトキハ熊ノ部ニハ能ク熊ノ種類ヲ集メ  
獅ノ部ニハ能ク獅ノ種類ヲ集メシコトヲ發明  
セル者ト想像ス可シ  
動物界ヲ大別シテ二部ト爲ス

**第一大部** 此大部中ニハ人類、四足獸類、禽類、  
虫類、魚類等ノゴトキ脊骨ヲ具有セル諸動物ヲ

包有ス蓋此諸動物ハ皆骸骨アリテ其身體ヲ支  
撐スレモノニシテ其脊骨及肋骨等ハ即骸骨ノ  
部分タリ而シテ脊骨ハ能ク屈伸スル處ノ骨節

相連合シテ成ルモノトス其髓ト稱スル處ニハ  
神經ノ一部分ヲ含蓄セリ

第二大部

此大部ハ墨魚イカ、蝸牛カタツムリ、牡蠣カキ、蟲類、小蟲類、

植蟲類等ノ如キ脊骨ヲ具有セサル諸動物ヲ包  
有ス蓋此諸動物ハ總ヘテ骸骨脊骨肋骨等ナク

シテ其形體ハ一般ニ小サキモノナリ然レトモ  
其種類ノ數、甚多ク動物界中ニ在リテ大部分  
ヲ爲セリ且此動物中或ハ殼ヲ具有シテ其身ヲ  
保護スルモノアリ或ハ柔軟ナル皮ヲ以テ其身  
ヲ被フモノアリ而シテ此等ノ動物中ニハ瓦官

ノ機關全ク具リタルモノナク或ハ目官ヲ缺キ  
或ハ口官ヲ缺キ或ハ鼻官ヲ缺クモノアリ又此  
等ノ動物ハ一二種ヲ除クノ外皆赤色ノ血ヲ有  
セザルモノニシテ或ハ運動スヘキ勢力ヲ具有  
セズ終生一處ニ定止スルモノ數多アリ總ヘテ  
第二大部ニ屬スル動物ハ智力ヲ具有スルコト  
公微ナリト雖モ自然ノ嗜意ヲ具有スルコトハ  
實ニ驚ク可キナリ

第一大部

有脊動物即脊骨ヲ具有セル諸動物

有脊動物ヲ分ケテ四綱ト為ス即左ノ如シ

○第一綱 哺乳動物 此綱ニ屬スルモノハ人

類、蝙蝠類、獼猴類、熊類、牛類、羊類、鹿類其他ノ諸

四足獸類、及海狗類、海馬類、鯨鯢類等是ナリ

○第二綱 禽類 諸種ノ禽鳥ハ皆此綱ニ屬ス

○第三綱 爬虫類 此綱ニ屬スルモノハ蜥蜴

類、龜類、蛇類、蛙類等是ナリ

○第四綱 魚類 諸種ノ魚類ハ皆此綱ニ屬ス

第二大部

無脊動物即脊骨ヲ具有セザル動物

無脊動物ヲ分テ三綱ト為ス即左ノ如シ

○第一綱 柔軟動物 此綱ニ屬スルモノハ大

概介殼中ニ柔軟ノ肉ヲ含蓄スル者ニシテ即

鸚鵡螺、牡蠣、車渠、墨魚等是ナリ

○第二綱 多節動物 此綱ニ屬スルモノハ即

蟹類、龍蝦類、蜘蛛類、小蟲類、水蛭類、蚯蚓類等是

ナリ

○第三綱 多肢動物 此綱ニ屬スルモノハ耀

輝ナル光澤アル動物ニシテ其形狀或ハ枝節



二類セル者アリ即海盤車、繸蟲、珊瑚蟲、莖莖、  
 等是ナリ  
 上條ノ分類法ハ鯨及象ノ如キ最大ノモノヨリ  
 最微ノ蟲類ニ至ル迄ノ諸動物ヲ包括セルモノ  
 ニテ動物總論ヲ學ビ得ル間ニ吾人ヲニテ相  
 見ル處ノ各種動物ハ此分類法中ノ何網何目ニ  
 屬スルヤヲ認識セシムルニアリ故ニ今吾人ヲ  
 レテ此分類法ニ從ヒ其主眼ノ動物ヲ逐次考究  
 セシムコトヲ要ス

第一大部

有脊動物

有脊動物ノ數種ハ皆赤色ノ血、及筋多キ心臓、  
 二齶ヲ具ヘタル口アルモノナリ此動物ハ皆其  
 面部ノ凹キ處ニ於テ視、聽、嗅、味ヲ爲ス可キ機關  
 ヲ具ヘ且四肢ヲ有シ

第九十九圖



人ノ骸骨

テ男女性ヲ異ニシ血  
 液循環ノ造構全ク備  
 ハリ呼吸、消化及分泌  
 ノ機關等モ亦皆身體  
 ノ造構中ニ存在セシ

第一綱 哺乳動物  
哺乳動物ヲ分テ十目ト爲ス即左ノ如シ

第一目 人類即兩手類是ナリ

第二目 四掌類  
四手ヲ具有即獼猴類是ナリ

第三目 殺生類  
他獸ヲ捕獲シテ其即熊類、獅類等是ナリ

第四目 水陸兩生類  
水中并ニ陸地ニ即海狗類、海馬類等是ナリ

第五目 袋獸類  
腹肚ノ外ニ袋狀ノ即オポッサム是ナリ

第六目 齧齒類  
即鼠、鼯鼠、栗鼠等是ナリ

第七目 無齒類  
門齒無即樹懶、食蟻獸等是ナリ

第八目 厚皮類  
皮ノ厚即象、猪、馬等是ナリ

第九目 翻胃類  
一回食セテ再ヒ咀嚼スル動物即牛、羊、鹿、山羊等是ナリ

第十目 鯨鯢類  
鯨ノ性ニ類即海猪類等是ナリ

哺乳動物綱

第一目 兩手類

人類

人ハ諸動物中特別ノ種ニシテ甚聰明ナ

第百圖 高加索種



ルコト、是非ノ性ヲ有スルコト、ヲ以テ他ノ諸動物ニ卓越ス然レトモ萬國ノ人民皆同一種ニアラス世ニ正史アリテヨリ以來白哲ノ人種歐羅巴及亞細亞ノ西方亞非利加ノ北部ニ住セリ此人種ハ極メテ聰明ニレテ外貌雅致アリ之ヲ高加索種ト名ツク蓋黒海ト裏海ノ間ニ横絶

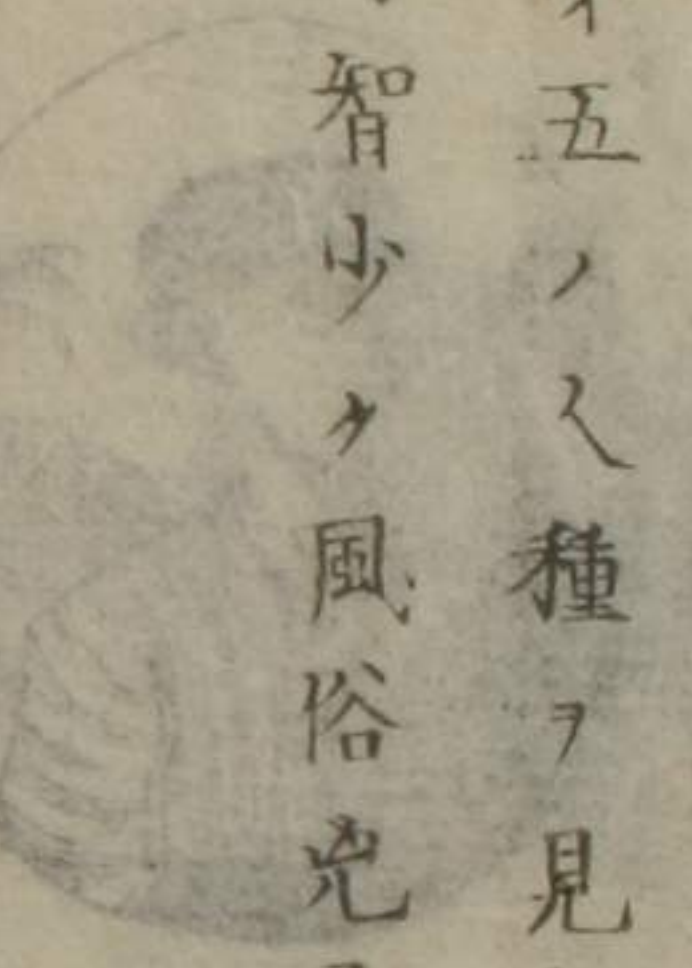
第百一圖 巫來由種



第百二圖 蒙古種

セルコトカトシ山中ヲ以テ此人種初生ノ地ト略定スルニ因リテナリ又皮膚帶黃色ノ人種亞細亞ノ餘地ニ住セル者アリ之ヲ蒙古種ト名ツク蓋支那北方ノ蒙古國ヲ以テ此人種初生ノ地ト爲セバナリ蒙古種ハ其聰明並ニ氣力高加

索種ニ次々第三ノ人種ハ亞細亞ノ大島中ニ住  
 ス之ヲ巫來由種ト名ツク第四ノ人種ヲ以日阿  
 伯啞種又黑人ト稱ス肌膚漆黑外貌野鄙ニシテ  
 才智モ亦淺シ亞非利加ノ住民ハ大半此種ニ屬  
 ス又三百年前始ノテ亞米利加洲ヲ發見シタル  
 時第五ノ人種ヲ見出セリ此種ハ肌膚銅色ニシ  
 テ才智少ク風俗兇暴ナリ之ヲ亞米利加種ト名  
 ヲク  
 白哲ノ人種ハ皆上ニ文學ヲ脩メ藝術ヲ競フ者  
 トス蓋世ヲ追テ聰明ニ進歩シタルハ唯此人種



ノミナリ  
 埃及亞刺比亞米所波太迷亞叙利亞及希臘等ノ  
 人民ハ夙ク文學藝術政法ニ進歩セリ紀元前千  
 九百年頃ニ方リテ亞刺比亞ニ牧羊者亞伯拉罕  
 ト云フモノアリ其子孫タル以色列人ト云フニ  
 及ビテ歴史興亡ノ事情ハ聖經中ニ見エタリ又  
 希臘人ハ特ニ聰明睿智ナルコト世上ニ冠絶ニ  
 リ今其遺書ヲ讀ミ其餘業ヲ見テ以テ文學藝術  
 ノ盛且大ナルコト後世夫曾テ之ニ勝レル者ア  
 ラサルヲ知ル可レ

古今東西

十

古今東西

第三百三圖

亞米利加種



第四百四圖

亞弗利加種又黑人

羅馬人ハ勇氣ヲ以テ數  
 百年間萬國ニ冠タリ紀  
 元前千年頃ヨリ紀元後  
 六百年代ニ至ル迄地中  
 海北濱ノ諸國ニ在リテ  
 獨暴虐ノ域ヲ脱レタル  
 モノハ唯希臘及羅馬國  
 アルニ而シテ其衰フ  
 ル復暴虐ノ舊態ニ沈弱  
 セリ

泰西歷史ノ時代ハ紀元第  
 一千年迄ハ第六百年ニ  
 至ル迄ヲ古代ト號シ此間  
 ノ人ヲ古人ト稱ス又  
 此時ヨリ千四百年代ニ至  
 ルヲ中古ト名ゾク此  
 際ニ方リテ教化漸甦復テ  
 古人ノ文學ニ賴リテ  
 習練琢磨ノ意思ヲ助ケ物  
 理ノ學業ヲ修メシガ  
 此時代ヨリシテ西教ノ德澤  
 モ亦大ニ世人ヲ薰  
 陶セリ凡歐羅巴ノ諸國ニ  
 テハ以太利西班牙佛  
 蘭西日耳曼英吉利等特ニ  
 此道ニ進歩シテ古人  
 ノ文教ト雖モ復應ニ之ニ  
 遜ルヘレ  
 近世此諸國ヨリシテ白  
 皙ノ人種其教法文學藝

術及政法ノ意思ヲ以テ亞米利加洲ノ東濱ニ渡  
リ年所ヲ經ズレテ遂ニ全洲ヲ所有スルニ至レ  
リ  
白哲人種ハ斯ク一方ニ開化ヲ進メタリト雖モ  
此時ニ方リ文學開祖ノ國ハ却テ不開化ノ域ニ  
却步シ彼ノ皮膚著色ノ人種ト殆ト同様ナル景  
況ニ至レリ埃及亞刺比亞米所波太迷亞叙利亞  
等ハ皆文學開祖ノ國ナレドモ當今ニ至リテハ  
頽寥々乎トシテ見ルハキモノナレ唯大厦高堂  
ノ殘址遺構ヲ見テ以テ昔時ノ盛大ナル證跡ヲ

判スルノニハ相  
人身ノ外形ハ衆人ノ能ク感知セル所ナリ其身  
長ハ五尺ヨリ六尺ノ間ニシテ其身體ニ大強カ  
ラ有セル者ニアラサレドモ直立レタル姿態ハ  
萬物ノ靈タル可キ威徳ヲ顯セリ總ハ人ノ類幼  
少ノ時期ハ鳥獸ヨリモ長キモノニテ二十歳以  
上ニ至ラサレハ全ク成長セズ此間幸ニレテ疾  
病死亡等ノ患ヲ免ルレバ爾後三十年間ヲ以テ  
壯年ノ期トス又其後二十年ヲ以テ初老ト爲レ

博物學 卷四 三 文部省

骨體ノ全骨

七十歳ヲ越ルトキハ則老年ニ至ルト云フ

人體ノ全骨 人體ハ骸骨ト名ヅクル骨格トニ

成立セリ左圖ハ其骨格ヲ示スモノニシテ骨格

中至要ノ部分ハ即脊骨<sup>スベキ</sup>イイナリ脊骨ハ二十四

骨ヨリ成ル處ノ一柱ノ骨ニシテ其上端ニハ頭

蓋アリ又肋骨<sup>ハ</sup>ソソハ脊骨ヨリ出テ彎曲シテ前

面ニ至リ過半ハ胸骨<sup>ウ</sup>ト名ヅクル骨ト相會セ

リ鎖骨<sup>井</sup>ハ頸ヨリ肩ニ至リ上臂骨<sup>口</sup>正肘骨<sup>ニ</sup>

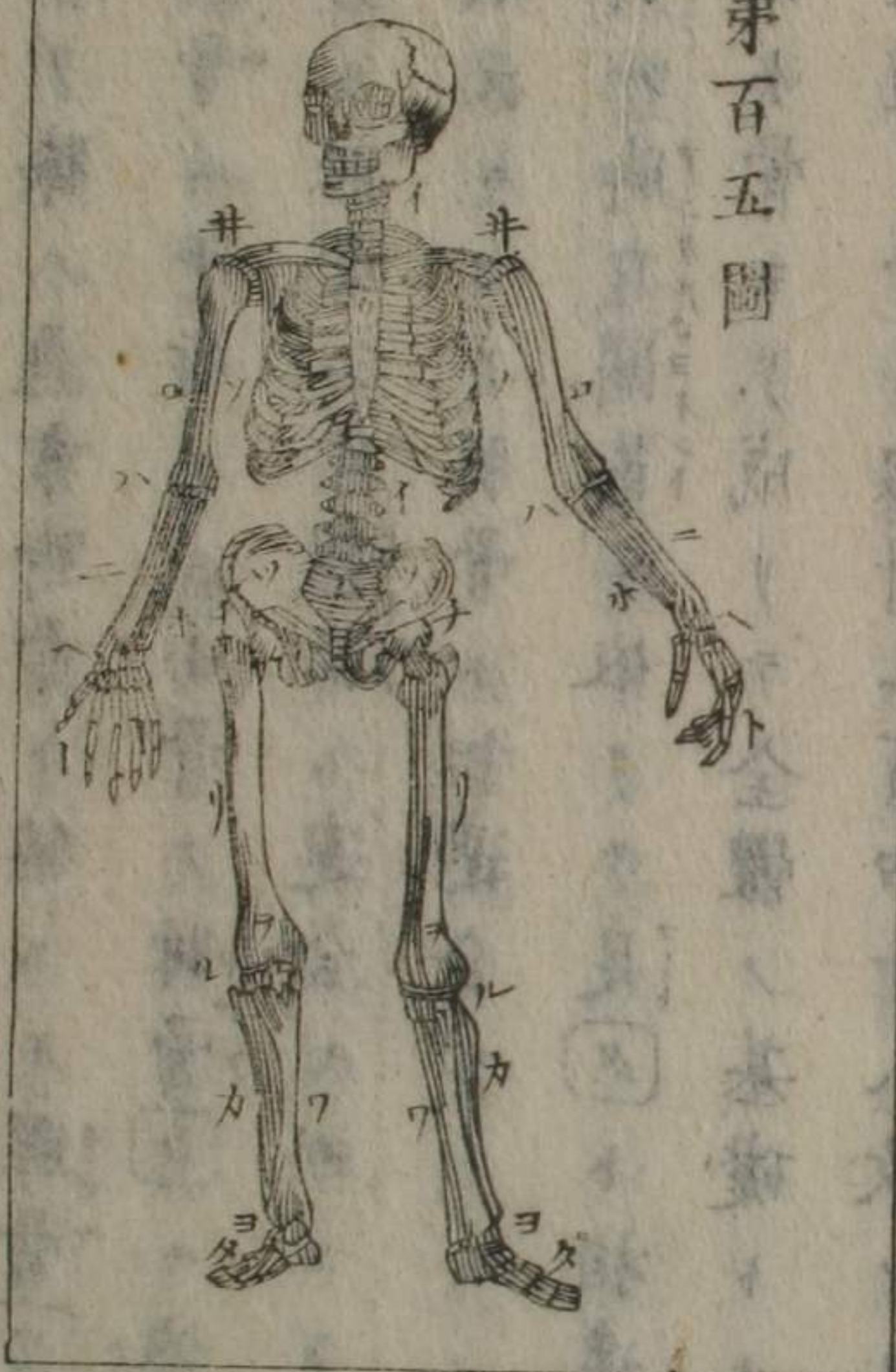
及轉肘骨<sup>ホ</sup>ヨリ成ル處ノ腕ノ首<sup>シ</sup>成ル正肘骨

ト轉肘骨トハ肘<sup>ハ</sup>ト名ヅクル關節ニ依リテ上

臂骨ト相連合セリ腕ノ端末ニ手掌骨アリ此骨

ハ手骨掌骨<sup>ヘ</sup>及指骨<sup>ト</sup>ニ依リテ成ル

第百五圖



脊骨ハ薦骨<sup>△</sup>ノ上ニ坐

レ薦骨ハ軀

幹ノ基礎タ

ルニ尻骨盤<sup>ツ</sup>

ノ間ニ

固著ス尻骨盤ヨリ腿骨<sup>チ</sup>相起リテ脚ノ七部

骨體ノ全骨

ヲ成レ膝ニハ膝蓋骨ニハ膝蓋骨ヲト名ツクル特別ノ小骨  
アリ膝ハ通常脚骨ト稱スル脛骨チビヤワノ首トナリ  
脛骨ハ平行セル小骨ノ腓骨チビヤカニ依リテ支撐セ  
ラル腓骨ハ膝關節ト連合セザレトモ脚目チビヤヨ  
成スニヨリ脛骨ト相連合ス

脚ハ脚目關節ニ依リテ足アキクルビヨイシトタト相連リ足ハ若干  
ノ小骨ヨリ成リテ全體ノ基礎トナルモノナリ  
人體ノ骨ハ總計二百四十八枚アリテ構造各其  
用ニ應シテ其質堅硬白色ニシテ石灰及小量ノ  
動物質ヨリ修成セリ

骨骼ノ上表ニハ筋肉皮毛等ノ齊整備具スルア  
ツテ人目ヲシテ常ニ此骨骼ヲ看ルコト能ハサ  
ラシム蓋骨骼ハ人目ヲ悦バレムルモノニ非サ  
レバナリ

人體ノ筋

人體中ノ柔軟ナル部分ハ大半肉絲  
ト名ツクルモノヨリ成ル且手足ヲ意ノ如ク運  
動セレムルノ力ハ皆此肉絲中ニ在リ全身ノ肉  
絲ヲ分テ四百餘束ト爲シ皆之ヲ筋ト稱ス其形  
狀ノ大小性質ノ強弱等ハ各其用ニ從ヒテ變ズ  
筋ハ柔軟ニシテ赤色ノ肉絲ヲ束子タルモノナ  
ル



リ其形圓塊ノ如ク其方向互ニ相並行ス手足ニ  
 ハ運動ノ爲ニ緊要ナル筋アリ其兩端ハ關節ヲ  
 跨エテ骨ト連合ス故ニ精神手足ヲ動サント欲  
 スルトキハ命ヲ交通神經ニ傳フレハ則此節膨  
 脹収縮レ唯意ノ欲スル所ニ從フ者ナリ  
 斯ノ如ク身體ノ外部ニ在ル諸筋ハ皆精神ノ管  
 理ヲ受ク然レドモ内部ニハ血液循環食物消化  
 ノ爲ニ必要ナル諸筋アリテ其功用ハ醒覺之際  
 モ睡眠ノ間モ絶エテ怠ラズレテ心意ニ從ハザ  
 ルモノナレバ之ヲ稱シテ不隨心筋ト云フ

人體ノ神經系

人體ノ全面ニハ神經ト名ツル  
 ル細線アリテ遍布セリ此神經ハ腦及脊髄ヨリ  
 起リテ五官ノ報知ヲ精神ニ奏通シ精神ノ命令  
 ヲ諸筋ニ傳達スルノ功用アリ腦及脊髄諸神經  
 トヲ總稱シテ神經系ト云フ其故ハ此三者顯然  
 ナル同一ノ功用ヲ爲スヲ以テナリ神經ハ並行  
 シタル白色細微ノ纖維ニシテ小孔アル莖ノ中  
 ニ包圍セリ之ヲ分テ二部ト爲シ其一ハ知覺ノ  
 用ヲ司リ其二ハ運動ノ用ヲ達スル者トフ  
 腦ハ頭蓋ノ腔中ニ在ル白色柔軟ノ塊肉ナリ其

身  
 卷  
 十五  
 支那省

組織ハ纖維狀ノモノニシテ血管ノ十分ニ備具  
セルアリ且精神ノ機ニシテ其功用ノ緊要ナル  
コトハ論ヲマタス故ニ腦ヲ保護スルノ方甚嚴  
ナリ蓋腦ヲ蓋ヘル骨ハ穹窿狀ニシテ最モ堅牢  
ナル數骨ノ合成セルナリ其縫合スル所ハ犬牙  
綜錯シテ互ニ密接セリ斯ク其縫合スル所以ハ  
其一部ニ若傷害ヲ受タズ其害唯一骨ニ止テ他  
骨ノ部分ニ及ボス患無カラシメンガ爲ナリ  
腦ノ内部ヲ分チテ最要ナル大塊及後部ノ小片  
ト爲ス其大塊ヲ大腦ト名ケ其小片ヲ小腦ト

稱ス小腦ハ脊骨ノ孔内ニ充實セル處ノ長キ髓  
ト相連ル此長キ髓ヲ脊髓ト名ツク脊髓ハ針  
又ハ刺ノ如キ至細ノ傷害ヲ受クトモ亦死ヲ致  
ス可レ  
五官及肺胃ト交通スル神經ハ其源腦ヨリ發シ  
手足ヲ運動セシムル神經ハ脊髓ヨリ出ツ又交  
感神經ト名ツクル別種ノ神經アリ此神經ハ腦  
及脊髓ト直ニ相通セスシテ胸部ニ在リテ不隨  
心筋ニ運動力ヲ與フルモノト略定セリ  
體外萬象ノ感覺ハ皆五官ト略定セリ  
視ハト聴クト味  
ハト嗅クト觸ル

博物學 卷四 十六

トルコヲ經テ以テ意識機ニ相通ス  
**視官** 物ノ形狀及彩色ヲ認知スルハ眼ノ功用  
 ナリ其外貌ハ入ノ能ク認知スルモノトス眼ハ  
 透明ナル球ヨリ成リテ眸子ヲ除クノ外悉ク前  
 面ヲ蔽ヘリ球ノ後面ニハ眸子ト相對シタル網  
 ノ如キ膜アリ之ヲ網膜ト名ノク此膜ハ鏡面ノ  
 如ク萬像ヲ映セシムルノ力アリ故ニ物像眸子  
 又透テ内部ニ至レバ則直ニ此膜ニ映ス且物ハ  
 大ニ水晶體ノ爲ニ減縮セラルモ各トス蓋  
 網膜ハ張開シタル神經ニシテ眼球ノ後ニ至

テ投束ニ遂ニ神經ノ常形ト爲リテ腦ニ通ス  
**聽官** 耳ノ音聲ヲ聽キ得ルハ鼓膜ト名ヅク  
 膜上ニ張開シタル神經ノ功用ナリ鼓膜ハ鼓皮  
 ノ如ク耳内ノ空竅ヲ横斷スルモノニシテ音聲  
 ハ則空氣ノ顫動ニシテ以テ鼓膜ヲ振蕩セシムル  
 ニ依リ生スル者トス例ヘハ大砲ヲ發射スルト  
 キハ窓戶之カ爲メニ震動スルガ如シ今夫空氣  
 鼓膜ヲ震動スルトキハ鼓膜ノ神經精細ニ其感  
 得スル處ノ報知ヲ腦ニ奏ス又鼓膜ト結合スル  
 數多ノ小細胞アリ此空竅ハ音聲ヲ反響シテ神

經ヨリ腦ニ輸送スル感應ヲ高ムルモノト略定セリ

**味官**

味ヲ知ルコトハ特ニ舌面ニ遍布スル神經ニアリ蓋舌膜ノ上面ニ夥多ノ小孔アルハ食物ノシテ直チニ神經ニ觸レシメシカ爲ナリ

**鼻官**

香臭ヲ嗅クコトハ鼻孔内ノ皮下ニ遍布スル神經ニアリ蓋鼻烟ヲ屢嗅クトキハ此神經ヲ害スル者ナリ

**覺官**

外物ノ觸覺ヲ知ルコトハ身體ノ全面ニ蔓延遍布スル處ノ神經ニアリ而シテ能ク諸物

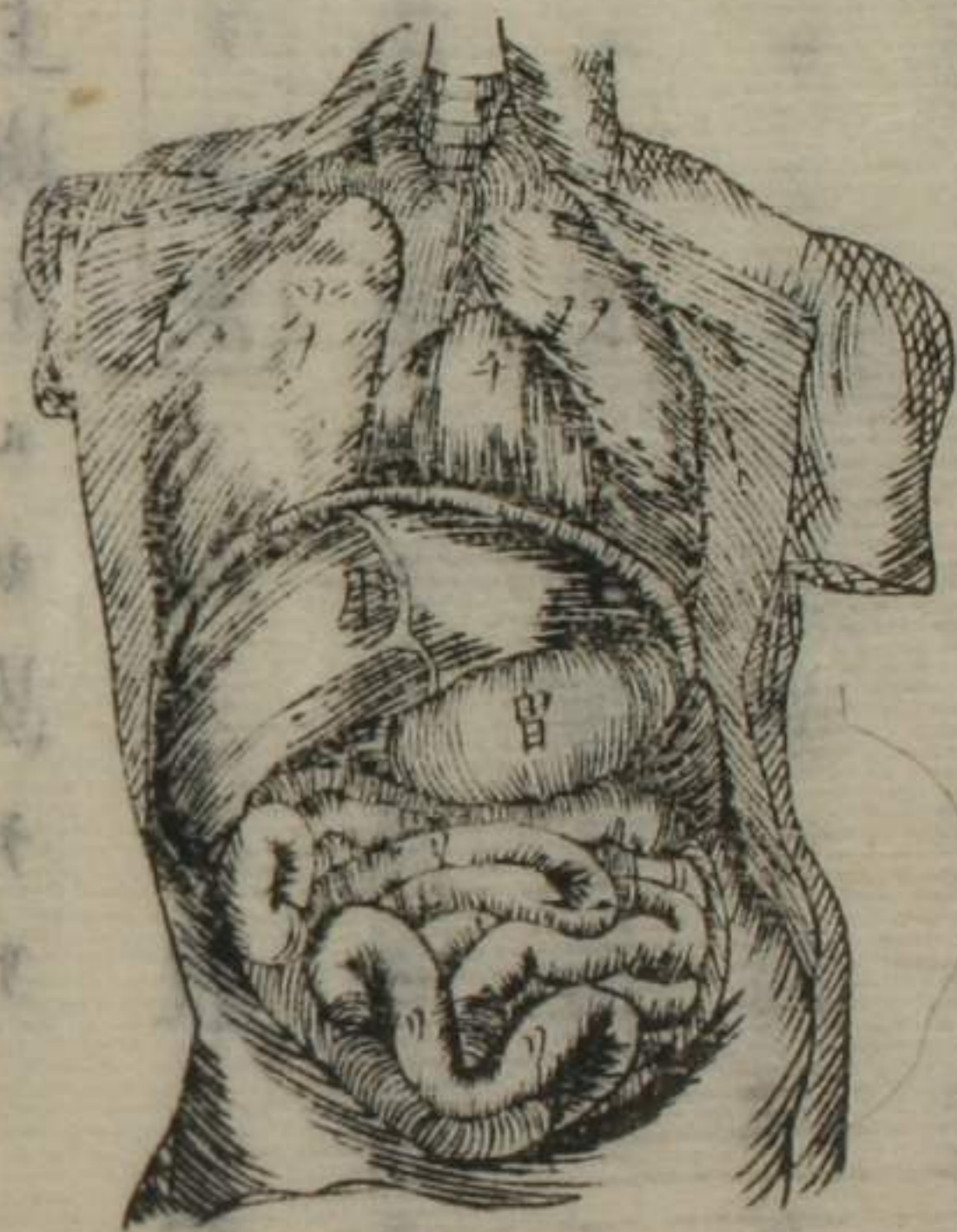
ヲ明了ニ判決スル指尖ノ神經ハ最モ無數ニシテ且細微ナルモノナリ是其感觸知覺ノ功用ヲ司ル主機ナルガ故ナリ

**人體ノ血液**

人體ノ全體ハ骨肉共ニ血ト名ヅクル赤色ノ液アリテ流通セリ血ハ脈管ヲ通シテ循環ス此管ノ末端甚細ナルコトハ得テ知ルハカラス血ヲ全體ニ循環セシムルノ機並ニ生命保續ノ爲ニ欠ク可ラサル食物及空氣ヲ血液ニ資給スルノ機ハ皆身體ノ上部ナル肋骨内ノ空竅中ニ在リ

此空竅ヲ稱シテ胸ト云フ其下部ニハ呼吸ニ從テ上下スル平膜アリテ體內ヲ横斷シ以テ上下

第百六十六圖



ノ分界ヲナス之ヲ横隔膜ト名ヅク又薄膜アリテ胸部ヲ縦斷シ左右兩邊ニ分ツ此膜ノ後部ハ別レ

テ二層トナリ胃管及胃ト通スル處ノ溝管ヲ爲ス左邊ノ胸部ニハ心グレート及左肺スモールアリ他方ニ

右肺リットルアリ又リットルノ符號ハ則腸ナリ又

心ノ牢固ナル筋狀ノ囊ニ合テ其側面ニ厚

シテシテノ四分一ヨリ半イニシテニ至ル環狀ノ

長キ肉狀纖維ヨリ成レリ心ノ功用ハ唧筒ノ水

ヲ壓レテ射出セレムルガ如ク血ヲ壓レテ體內

ノ諸脈管ニ輸送スルコト猶管ヲ以テ水流ヲ都

邑ニ灌注スルトキ水櫃之ガ源ヲナスガゴトシレ

心ノ内部ヲ別チテ左右二區ト爲ス其分界極メ

テ強固ナリ又此二區ヲ分チテ二房ト爲ス即心

耳心室是ナリ

本草綱目卷之九 心臓

第百七圖 心臓



リ蓋左心室收縮レテ血ヲ動脈管ニ射出シ遂ニ全體ノ各部ニ運輸ス斯ク分派シタル血再静脈管ニ集入レテ遂ニ右心耳ニ歸リ隨ヒテ又右心

ヲハ左肺  
イハ大動脈幹ヲハ血ヲ  
心ニ輸ル處ノ大静脈  
ラハ右心室  
ラハ左心室ナリ  
心ノ右邊ニ心耳心室アリ左邊モ亦心耳心室アリ

室ニ入ル血液此ノ如ク身體ノ各部ヲ一周スルコトヲ稱シテ第一運行ト名ヅク而レテ復右心室ヲ出テ肺動脈ヲ歷テ肺臓内ノ循環ニ肺静脈ニ集リ遂ニ左心耳ニ入り隨ヒテ又左心室ニ入り再全體ノ各部ニ派出ス蓋肺臓内ヲ循環スルノ間之ヲ第二運行ト名ヅク總ベテ心ヨリ血ヲ射出スル動作ハ手足ニ於テ覺知スルコトヲ得ベシ之ヲ名ヅケテ脈息ト稱ス大人ノ全血量ヲ計ルニ一十四ポンド乃至三十ポンドナリト云フ

本草綱目

心

第百八圖 人體ノ靜脈



止文ニ位置  
記載セシ肺臟  
ハ呼吸ノ機器  
ニシテ彈力  
ル輕體ナリ其  
質ハ海綿狀  
レテ氣管支氣  
管及血管ノ集  
合錯雜セルモ  
トス凡バ

第百九圖 人體ノ動脈



口ヨリ吸ハスル所ノ空氣ハ氣管ト名ゾタル大  
管ニ入リテ遂ニ肺ニ至ル此氣管ハ胸ノ上部ニ  
於テニ條ニ分レ左右兩肺ニ入リテ又分レテ無  
數ノ小枝トナリ肺ノ全面ニ蔓延ス  
氣管支ノ末端ハ肉眼及眼鏡ノ見得ルコト能ハ  
サル細管ニシテ彼血管ノ細微ナル末端ト相混  
交レ以テ肺ノ血液循環ヲ扶ク可キ職務ヲ成セ  
リ夫血液ノ人體ヲ榮養補給シテ活潑ナラシム  
ル本原ノ第十八酸素ナリ蓋血液第一運行ヲ以  
テ全體各部ニ榮養活潑ノ力ヲ給シ第二運行ヲ

以テ肺内ニ至リ氣管支ト相接レテ大氣中ノ酸素ヲ引キ直ニ心臟ニ還リ其吸收セシ所ノ酸素ヲ再輸出ス

消化系

横隔膜ノ下ニ在ル榮養ノ機器ハ主トシテ胃ト腸ト一係レリ凡食物ハ胃管ヲ通り下リテ胃（胃）ニ至ルトキ胃液ト名ヅクル液汁ノ消化ヲ受ク此胃液ハ疾病アルニ非ザルバ則最堅質ナル食物ヲモ尚能ク消化スル所ノ力アル者ナリ

消化スル能ハツルモノヲ拒ム處ノ能力アリ斯クテ糜塊ハ十二指腸ト稱スル腸ノ上部ニ於テ胆汁ト云ハル液ヲ肝ヨリ受ケ又脾液ト云ハル液ヲ脾ヨリ受ケ更ニ消化レテ以テ乳糜トナル既ニ乳糜ト爲リタル者ハ乳糜管ト唱フル無數細微ノ管ニ依リテ吸入セラレ上リテ胸管ト称スル長キ管ヲ經過シ終ニ鎖骨下ノ靜脈管ニ注



入シテ身體ヲ養フガ爲ニ全ク肺中ニ血液ト相混合ス

胃液ノ消化ヲ受ケザル食物ノ餘塊ハ皆腸ヲ過

テ驅出セラレ腸ノ形狀ハ胃ヲ如シ大囊ニアラ

スレテ直徑一<sup>1</sup>インチ乃至二<sup>1</sup>インチノ溝管ナリ

解體家ハ之ヲ分チテ六部ト爲ス曰ク十二指腸

曰ク空腸曰ク迴腸曰ク盲腸曰ク結腸曰ク直腸

而シテ直腸ハ諸腸ノ最末端ナリ

分泌及排泄系

血ハ既ニ記載セル作用ヲ以テ

食物ノ精良ナル部分ヲ資リ人體ヲ榮養補給ス

ルノ外更ニ分泌排泄ノ緊要ナル職務ヲ成セリ

其分泌機ノ重要ナル者ハ肝第百六圖中肝腺ト記スル處及

唾腺サリリシテクワシムル腺淚腺等ナリ

肝ハ黒色柔軟ノ大ナル機器ニシテ腹腔上邊ノ

右側ニ在リ肝ハ唯動脈アルテリノ遍布セルノミナラス

足部ヨリ迴血ヲ心ニ輸送スル大靜脈ウエイ七亦之ニ

遍布セリ而シテ其膽汁ヲ分泌スルハ全ク動脈

ノ所爲ナル乎將靜脈ノ所爲ナル乎未審カナラ

ス脾ハ其形狀大ニ舌ニ類似シ胃ト近接セル細

小ノモノナリ脾ヲ用ハ食物ヲ消化シテ乳糜ト

爲スベキ液汁ヲ分泌スルニ在リ  
 唾腺ハ口内ノ周邊ニ在リテ食物ノ咀嚼ヲ助ク  
 ル爲ニ津唾ヲ分泌ス又淚腺ハ眼窩ノ内角ニ在  
 リテ絶エズ眼球ヲ滋潤ス若此滋潤ナキトキハ  
 眼球轉動ニ難クンテ太陽空氣等ノ爲ニ屢傷害  
 ヲ受クルコトアラシ  
 此他猶許多ノ分泌機アリテ身體ノ諸部ヲ滋潤  
 セリ例ヘバ氣管支ニ氣管腺アリ腸ニ粘液腺ア  
 リ又皮下ニ脂腺アリテ人體ヲ保護ス可キ脂液  
 ヲ分泌スルノ功用ヲ爲ス斯ノ如ク分泌機中ニ

液汁ナルヲ見ルト雖モ其液汁ハ如何ナル分析  
 作用ニ因リテ生ズルカハ未之ヲ審ニスルコト  
 能ハス  
 排泄ノ主機ハ腎腸及皮膚ナリ腸ハ只食物ノ渣滓  
 ヲ輸出スル溝管ナントモ腎ト皮膚トハ血液ノ  
 渣滓ヲ分泌シ又之ヲ排泄スルノ功用ヲ見ル總  
 ベテ皮ノ職掌ハ汗ヲ蒸發スルニ在ルナリ  
 養生 身體ノ健康ハ世ニノ幸福中至重ナルモ  
 ノ、一ニ居ル健康トハ身體中ノ諸機ヲシテ造  
 化構造ノ道ニ從ヒ各其功用ヲ行ハシムルヲ云

フ疾病ハ則之ニ反シテ諸機中傷害ヨリ起リ或  
 ハ其功用ヲ錯亂スルヨリ生ズ凡、老年ニ及バズ  
 シテ死スルモノハ生來ノ虚弱ニテラザレバ則  
 必、諸機中ニ不慮ノ傷害ヲ受クルカ又ハ功用ノ  
 錯亂スルヨリ生ズルモノナリ  
 生來ノ虚弱ヲ療治スルコトハ無論人カノ能ク  
 及ク所ニアラズ又傳染諸病ハ人カヲ以テ必、預  
 防ス可キコトヲ保證スルコト能ハズ然レドモ  
 學識ト注意トヲ以テ養生ヲ善クシ永年無病ト  
 ルコトハ之ヲ爲レ得ベシ

第一 人體ノ傷害ヲ防禦セント欲セ、先造化  
 靈妙ノ法則ヲ知ルコト最緊要ナリ火ノ火傷セ  
 シムルコト熱湯ノ湯傷セシムルコト高處ヨリ  
 墜下スレバ重傷ヲ負ヒ刀刃ノ筋肉ヲ傷ルトキ  
 ハ劇痛ヲ覺ユル等は皆三尺ノ童子モ能ク知ル  
 所ナレバ世人是等ノ事ヲ知ルヲ以テ自、足レリ  
 トセズ尚須フク兩間萬物ニ就キ自然ノ法則ヲ  
 周ク學知スヘシ蓋、此法則ハ統ヘテ世人ヲ惠庇  
 スル爲ニ造化ノ設立シタル者ナレヲ却テ吾人  
 ハ屢之ニ戾リ身體ニ損害ヲ蒙ルコトアリ故ニ人

トシテ重カノ法則ヲ識リ又化學ノ法則ヲ知ル  
ヲ特ニ緊要ト爲ス

第二 人體功用ノ錯亂ニ因リテ起ル所ノ疾病  
ヲ防カント欲セハ先人體功用ノ法則ヲ知ラン  
コトヲ要ス特ニ全體ノ諸機ヲシテ能ク其功用  
ヲ達セシムルニ緊要ナル者四アリ空氣食物運  
動清潔是ナリ凡健康ヲ保全スルニ、必、此四者  
ヲシテ各其宜キニ適セシメシコトヲ要ス  
空氣ノ人體諸機ノ功用ヲ扶助スルニ其酸素ヲ  
含蓄スルコト全量五分ノ一ニ居ルトキヨリ最

宜ハナシ若空氣ノ流通セザル室内ニ在ルトキ  
ハ速ニ其酸素ヲ減消ス古語ニ曰ク密室ニ居テ  
呼吸スレハ一呼一吸皆健康ニ害アリト故ニ居  
室食堂等ハ其承塵ヲ高ク且大ニスルヲ良トス  
否ラザンハ空氣常ニ流通シ難シ又寺院學校製  
作場其他衆人ノ集會スル處ハ空氣ノ流通ヲヨ  
クスヘシ總テ室外ノ空氣ハ人體健康ニ於テ最  
モ良トス是ニ依リテ考レバ居室ノ人ハ日々著  
ルキ空氣ノ量ヲ費ヤスベシ  
健康ノ爲ニ必要ナル者ハ良善ノ食物ナリ諸食

物中麵食、脯肉、醃藏肉、膏膩品及果實、中特ニ榛  
子、扁桃仁、栗子ノ如キ核果ノ仁ヨリ成ル所ノ者  
ハ消化甚惡シク動モスレハ胃ヲ害シ腹痛ヲ起  
スモノナレバ之ヲ食スルコト勿レ若之ヲ食ス  
トモ必少量ニ止ル可シ

世人常用スル所ノ飲料中ニテ葡萄酒、火酒、杜松  
子酒、大麥酒ノ如ク多量ノアルコオルヲ含メル  
モノハ皆消化ニ害アリ飲料及肉類ハ其精選シ  
タル者ト雖モ尚過量ニ用井ルベカラス夫ノ嗜  
欲ニ欺カレテ過量ノ飲食ヲ貪ルカ若キハ胃

用之ガ爲ニ錯亂窘迫シ重キ疾病ヲ發スルコト  
アリ

吾人常ニ注意シテ人體ヲ養フ爲ニ必要ナル諸  
品ノ血液ニ供給シ且血液ヲレテ其功用ヲ遂ケ  
シムル方法ヲ行ハザルヲ得ズ

此方法ヲ行フニハ適宜ノ運動ヲ以テ須要ノモ  
トトス思フニ供給ヲ要フルコトハ消耗ヲ爲サ  
シメテシメガ爲ナリ今飲食ニテ身體内ニ得ル所ノ  
モノアラシニハ必分泌排泄ノ爲ニ體外ニ出ル  
モノ亦其分量ヲ同クセン故ニ斷ニス新陳代謝

ノ運営アリ然ルニ懶惰ニシテ身體ヲ運動セザ  
 ルトキハ此運営モ亦自衰弱ス故ニ精神ヲ活潑  
 ニシ筋骨ヲ運動スルコトハ健康ヲ保全スルニ  
 欠ク可カラザルモノナリ世人各己好ム所ヲ從  
 ヒ活潑ニ身體ヲ運動スレハ血液之ガ爲ニ適宜  
 ニ消滅シテ更ニ新ナル養ヲ得ント欲スルニ至  
 ル上條ノ説ニ由リテ動物身體功用ノ概略ヲ知  
 得ヘン蓋天ノ人ヲ生ズル其力ヲ勞セシメン  
 ガ爲ナリ古語ニ曰ク汝額上ニ汗シテ以テ汝カ  
 食ノ所ノ麵包ヲ作ルベシト故ニ人ハ勞カスル

爲ニ形體ノ諸機ヲ賦與セラレタル者ナレバ其  
 諸機ヲシテ造化設立ノ道ニ從ヒ之ヲ適宜ニ運  
 動セシムルニ是即造化ノ意思ニ愜フモノニシ  
 テ健康モ亦自保全スベシ  
 凡、世人怠惰豊富其他ノ惡レキ習慣ヨリシテ身  
 體ヲ運動セザルトキハ必、虚弱ニ赴キ又ハ疾病  
 ヲ生スベシ運動ヲ怠リ疾病ヲ生ズルモノハ特  
 ニ婦人ニ多シトス而シテ終日坐スル處ノ職業  
 ヲ爲ス人モ亦之ト同レ原因ニ由リテ疾病ヲ招  
 キ易シ

運動ノ不足ナル上ニ純粹ノ空氣ニ乏キ時ハ其  
健康ニ害アルコト甚多シ又吾人身體ノ強弱如  
何ヲ顧ミズ非常ニ心志ヲ勞レ身體ヲ運動スル  
コト勿レ斯ク非常ニ心身ヲ勞動スルトキハ巨  
害ヲ醸シテ往々死ヲ招クコトアリ  
身體ノ健康ニ必要ナルモノ、第四ハ即ち清潔ナ  
リ夫、全身浴又ハ半身浴其他屢衣服ヲ更換ス  
ル等ハ皮膚ヲシテ排泄ノ功用ヲ達セシムルニ  
須要ノコトナレドモ世人往々之ヲ知ラザルヨ  
リシテ遂ニ小兒ノ頸及耳ヲ毎日洗ハザル惡キ

習慣ヲ爲ニ至リ或ハ爪間ニ黥垢ヲ填ル者アリ  
是等ハ甚健康ニ害アリトス且健康ハ家室ノ清  
潔ナルト空氣ノ流通宜シキトヲ以テ最緊要ト  
身體ヲ清潔ニ爲スニ就中齒牙ニ注意フルコト  
極メテ緊要ナリ齒ハ必毎日擦掃シ清水ヲ以テ  
之ヲ洗ノミレ然ラザレバ食物ノ滓渣中ニ生ズ  
ル極微蟲（コホキト）珊瑚蟲（コウコウ）ト同シ類齒上ニ蕃殖シテ齒牙  
ヲ衰弱ナラレハ劇シキ齒痛ヲ起シ終ニ齒ノ市  
要ナル諸機ヲモ全ク喪失スルニ至ルベシ故

人ハ幼年ノ時ヨリ宜シク身體ヲ清潔ニスル  
トヲ習慣セシムヘシ

人ノ性

**總論** 腦ハ精神ノ府ユレテ五官ノ相會スル所  
ナルコトハ既ニ記載セリ然レトモ腦ヲ以テ精  
神ナリト想フベカラズ是唯造化ノ權力能ク有  
形ノ機器ヲ造リ之ニ精神ノ功用ヲ委任セルノ  
ミ顧フニ精神ハ靈妙細微ノ精氣ニレテ身死ス  
ルノ後モ消滅スルモノニ非ス而レテ其身體生  
活スル人間ハ那狀イカヤウニシテ有形及無形ノ物ト結

合スルカハ未之ヲ知ルコト能ハズ  
知覺ヲ熟考スルニ恰モ精神ハ猶寫真筐内ノ鏡  
面ノ知レ凡體外ノ見聞觸知スベキモノハ皆五  
官ヲ經テ此寫真筐内ノ鏡面ニ映レ以テ千差萬  
別ノ情態ヲ顯ハス然レトモ一回此筐内ノ鏡面  
ニ映スルモノハ之ヲ拭フトモ磨滅セス又此鏡  
ハ形像ナキモノヲ映出シテ地上曾テ比類ナキ  
美觀ヲ現スノ力アリ且人ノ事物ニ感ビテ之ガ  
爲ニ其情意ヲ動スコトハ此筐内ノ鏡アルガ故  
ナリ



斯ノ如ク精神ハ單純ニレテ分離ス可ラサルモ  
ノ、如レト雖モ之ヲ分テバ則各種ノ才能ト爲  
ル此才能ノ別レテ人間ニ在ルモノ強弱銳鈍ノ  
殊異ナルミリ同レク命ヲ天ニ稟ケ同レク此世  
ニ生ル、モ自ラ知愚ノ差違アルナリ  
是等ノ才能ヲ大別レテニトナス一ノ良知ト云  
ヒ一ノ良能ト云フ甲ハ主トレテ知識ニ關レル  
ハ全ク行爲ニ涉ル良能ハ  
良知ハ幼少ノ時ヨリ精神中ニ發生スル者ニ  
テ特ニ知識ヲ開カント欲スル諸才能ヲ含蓄ス

故ニ通常之ヲ知識能ト云フ乃言語ヲ習熟スル  
ハ能ト物ノ方圓大小輕重黑白ヲ觀察スルノ能  
ト物ノ上下多少順序、動靜、遲速音聲ヲ考察スル  
ノ能トナリ音聲ノ論ニ至リテハ音樂ノ由リテ  
起ル所タリ  
世人幼少ノ際ニハ充分ニ發生セザル所ノ良知  
ヲ回想能ト名ヅク其種ニアリ一ヲ比較能ト名  
ツク蓋其職務ハ事々物々ノ考思ヲ收集シテ其  
異同ヲ指レ示スニアリ詩人講師等ハ主トシテ  
此能ヲ習熟セリ人ノ述作セシ書冊及談話ハ

常ニ妙案ノ心機ヲ動スモノ互ニ相關涉シテ全ク相離レサルノ趣ヲ示シ以テ人ノ快樂ヲ極ム各種ノ心機一様ニ發生シ皆其中ヲ得ルトキハ是正詩ノ由リテ起ル處ナリ一ハ高尚ナルヲ云ヒ一ハ野鄙ナルヲ云フトキハ滑稽ノ文トナルナリ

想回能ノ第二ハ原由能ナリ此能ハ原由ト結果トヲ察スル處ノ能ニシテ良知中ノ至責至重ナルモノトス人ノ禽獸ト異ナル所以ハ蓋之ヲ以テナリ人ハ天ヨリ此能ヲ賦與セラレテ原由中

ニ結果ヲ履ニ視テ轉ヒテ福ト爲ス日由テ得可シ例ハ人其身久將ニ禍ニ陷ラントスルヲ推察スレハ則之ヲ避ケテ其結果ヲ遁ルハ故ニ此能ヲ大ニヒハ物理ノ師トナル可ク又能ク危急ノ際ニ臨ミテ容易ニ決斷スル人トナル可シ良能トハ人情ヲ彰示スル精神ノ部分ヲ謂フモノナリ此感動中ニ善心アリ私心アリ善心ハ人ヲ善道ニ導クモノニシテ私心ハ自己ノ爲フ歡樂ヲ極メ或ハ自己ノ爲ニ利益ヲ爲サント欲スルモノナリ

善心中第一ノモ、ハ尊敬ナリ尊敬トハ己ヨリ  
貴キ人又ハ物ヲ尊崇シ特ニ天地萬物ヲ創造シ  
テ世人ヲ惠愛スル處、神明ヲ恐敬スルヲ云フ  
其次ハ恩惠ナリ恩惠トハ我が力ヲ盡シテ世人  
ノ幸福ヲ導キ又我ヲ妨グルモノアリトモ之ヲ  
許スヲ云フ  
又其次ハ公道ナリ公道トハ世人ヲシテ人ノ人  
クル道ヲ行ハレノ其之ヲ行ハザル者ハ之ヲ悔  
イレハルヲ云フ又公道ハ人ヲシテ道理ニ背カ  
レズ若道理ニ背クモノアレバ後日自悔ノア

其過ヲ改ムルニ至レハ其ハ身重キヨリ  
良能ノ第二ハ正條ト如ク顯灼ナル者少シ然レ  
トモ人情ヲ悦バシメ快樂ヲ勸メ世上ノ職務ニ  
應ゼシムルモノニシテ此目中ニ含蓄セルモノ  
大個アリ左ノ如レ  
其一ハ剛毅ナリ剛毅トハ百事ヲ斷スルニ泰然  
トシテ之ヲ處分シ特ニ危難ニ臨ミテ裕然自若  
ナルコトヲ云フ其二ハ願望ナリ願望トハ堪ハ  
難キヲ堪ハ忍ビ難キヲ忍ビテ以テ後來ノ幸福  
ヲ樂ムコトヲ云フ其三ハ好奇ナリ好奇トハ所

謂好事ナル者ニシテ奇物、奇人、奇事等ヲ愛玩娛  
 樂スルコトヲ云フ其四ハ好美トリ好美ハ天  
 造並ニ人工ノ美麗ナル諸物ヲ嗜好スルコトヲ  
 云フ其五ハ好笑ナリ好笑トハ笑フ可キ奇物ヲ  
 好シ滑稽ヲ樂ミ遊戲ヲ嗜ムコトヲ云フ其六ハ  
 慕尚ナリ慕尚トハ意思有リテモ又ハ知ラズ識  
 ラスレテモ我が見聞認知セル他人ノ容貌性質  
 行狀等ノ學ビ慕フコトヲ云フ其七ハ  
 良能ハ第三ハ前者ヨリモ一等下レ者ニシテ  
 目中ニ含蓄セル者三個アリ其一ハ自重ナリ自

重トハ自己ヲ尊重誇大ニスルコトヲ云フ其二  
 ハ好譽ナリ好譽トハ好ミテ他人ヨリ自己ヲ尊  
 敬稱美セラレンコトヲ欲スルヲ云フ其二ハ謹  
 慎ナリ謹慎トハ現在若クハ未然ノ禍害ヲ防グ  
 コトヲ云フ  
 良能中ノ末尾ヨシテ最下等ノ中ニ含蓄スル者  
 數多アリ即生ヲ惜ムノ性、食ヲ嗜ムノ性、色ヲ好  
 ムノ性、子ヲ愛スルノ性、朋友ヲ親ムノ性、居所ヲ  
 選ヲノ性、憤怒シテ事物ヲ敗毀スルノ性、藏匿ノ  
 性、敵對ノ性、獲得ヲ欲スルノ性、勞カスルノ性、精

神ヲ一事ニ專ニスルノ性はナリ  
良知ノ發動シテ以テ其功用ヲ達スルハ自ラ一  
定ノ法則アリ此法則中ニ特別ノ名稱アリ事物  
ヲ了知シ又之ヲ熟考スル單純ノ功用アリ之ヲ  
注意ト云フ注意ハ常ニ精神中ニ發動スル所ノ  
意思ヲ停住シテ專ラ之ヲ目前ノ事物ニ注射スル  
ニ必要ノ者ナリ又注意ニ次ク所ノモノアリ之  
ヲ理會ト云フ蓋人ハ此理會ヲ以テ天地萬物ノ  
道理ヲ了會詳悉スルモノナリ又從前見聞セシ  
所ノ事物ヲ記存シテ之ヲ忘レザリノ力アリ之

ヲ記憶ト云フ  
人目前形無キ所ノ物ニ感動シテ現存精神中ニ  
存スルガ如キ念ヲ爲スアリ之ヲ名ヅクテ意思  
ト云フ又未見ザル處ノ形像ヲ集ムテ巧ニ之ヲ  
結構スルアリ之ヲ名ヅクテ想像ト云フ又一事  
ヲ思フヨリ知ラズ識ラス之ト關涉スル處ノ他  
事ヲ思フアリ之ヲ名ヅクテ合思ト云フ又睡眠  
中ニ思念ヲ發動レテ前後混亂スルコトアリ之  
ヲ名ヅクテ夢ト云フ  
良知ノ良能トヲ論ゼス各其能ヲ盡クレテ正シ

ク之ヲ使用フルトモハ其心ニ快樂ヲ覺ユベシ  
 此兩能ハ孰モ生活ノ大道ト行爲ノ正路トニ關  
 涉セザルハナシ知識能及想回能其正路ニ向進  
 スレバ人ヲシテ聰明ナラレム蓋善心動キテ奢  
 侈ヲ行ハザレバ必天ノ道ニ從ヒ教ヲ信シ徳ヲ  
 修メテ聰明ノ域ニ進ムヘシ  
 良能ノ第二ハ吾人ヲシテ良善ノ快樂ヲ受得セ  
 シム然レドモ此快樂度ニ過ルトモハ復罪責ノ  
 ルヲ免レズ良能ノ第三目中ニハ自重ト好譽ト  
 ノ二者ニ於キテ頗不良アルヲ見レドモ高德ノ

不足スルモノニハ二者ヲ以テ甚須要トス而シ  
 テ此二者甚シク度ニ過グルニキハ遂ニ驕慢ト  
 浮華トヲ生ズル者ナリ傲慢ナレハ則自ラ揚シ  
 テ満心シ浮華ナレハ則他人ヨリモ自己ノ稱賛  
 セラレシコトヲ希望ス  
 良能ノ第四目中ニハ人ノ保護永續ノ爲ニ緊要  
 ナル癖ヲ含蓄セリ而シテ德行善良ノ人ニアラ  
 ダルヨリハ條理ヲ考ヘ善行ノ勵ミテ此癖ヲ抑  
 制スルコト能ハズ  
 良能ハ單獨ニ發動スルコトアリ或ハ集合シテ

發動スルニトアリ例ハ尊敬ノ心ノ一ニ  
發動スルトキハ人ヲシテ孝心ナラレメ若シ之  
ニ自重ノ心ヲ加フレバ人ヲシテ己ガ奉スル教  
ヲ誇張シ人ノ教ヲ輕蔑スルニ至ランム又好譽  
甚レキ心ト恩惠ノ心ト集合スルトキハ人ヲシ  
テ己ノ善事ヲ虚飾スルニ至ランム又忿怒ノ甚  
ニキ心ト公道ノ意ト集合スルトキハ人ヲシテ  
刑罰ヲ行フコト残酷ヲ極ムルニ至ランム若シ  
ニ善心ハ純粹ナルニ緊要トス然ラザレバ其功  
徳鮮少ナリ

良能ハ下等ノ人モハ必善心ハ服従ニ明智  
管理ヲ受ケルヲ要ス否ラカシバ則災害ヲ招ク  
コト少ナカラス又人ノ心志ヲ勞レ以テ愉快ヲ  
覺ユルコトアリ之ヲ娛樂ト云フ此娛樂ノ突然  
發動シタルモノヲ歡喜ト云フ又心志ノ喜望ハ  
ル愉快ト愛情トヲ阻碍セラレ或ハ心ニ慊ラザ  
ル事物ノ爲ニ激動セラレ、アリ之ヲ憂愁ト云  
フ此憂愁ノ甚レク激シタルモノヲ哀痛ト云フ  
又此激シタルモノヨリ憤怒及復讐ノ念ヲモ興  
ナリ凡、人ノ能ハ事物來テ之ヲ感動スルニ非

事物學 卷四 三

博物學 卷之四

レバ則穩靜ニシテ知覺ナキモノ、如シ故ニ  
人ニ多ク過失ノルハ此能ノ屢事物ニ感動セラ  
レ穩靜ナラザルヨリ起ル者ナリ  
各種ノ能ハ其勢力強弱ノ殊ナルヨリシテ其趣  
ク所陷ル所アルヲ知ルコトハ人ノ要務ナリ又  
人ノ幸福、勢ヲ信スルヨリ生ジ特ニ左ノ四條  
ニ關スルコトヲ知ルニ在リ  
第一條、良知ヲ適宜ニ使用シテ世上ノ庶務ヲ  
爲シ且物理學ヲ學ビテ自然ノ性ニ適セザル勞  
動ヲ爲スコト、無ク以テ快樂ヲ得ベキ基礎ヲ立

必ベキニ在リ  
第二條、能力發動シテ其度ニ過キ禍害ヲ生ズ  
可キ能力ヲ抑制ス可シ  
第三條、意思ヲ謹慎シ持ニ自重ト好譽トノ二  
者ヲ制ス可シ此二者ハ巧言ヲ以テ能ク人ヲ詐  
偽シ又人ヲ害ス可キ不正ノ怒ヲ發スルアリ豈  
慎マサル可シヤ  
第四條、平常善心ニ服従スベシ然ルトキハ天  
意ニ適應シ人モ亦之ヲ愛敬スル者ナリ  
哺乳動物綱

博物學 卷之四

三六

大正



第二目 四掌類 四手ヲ具有

此目ハ大凡猿猴類、大猿類、真猴類等ノ如キ獼猴ノ族ヲ包有ス、クウコ、バブラス、フロムエンキ、クイマ、モシキ、クイマハ狐猴ヲ以テ此目ニ加入セリ

四掌類ハ其狀貌大ニ人ニ類似シテ四手ノ如キ、相別レタル四指ト相對スル拇指トヲ具ヘタル掌アリ果實、草根、蟲類等ヲ食物ト爲ス、四掌類ハ皆靈族ニシテ多クハ林中ニ棲ミ其性敏捷ニシテ狡猾活潑ナルモノナリ亞細亞、非利加、及亞米利加ノ暖地ニ生殖シ歐羅巴中ニハ

日巴拉大ヲ除ク外ニ此類ヲ産スル地

第一族 猿猴類

猿猴類ハ皆果實ヲ食シテ林中ニ棲ミ樹ヲ攀ル

第一百十圖 カイアマングレ



コト其巧ナリ其食ヲ索メ樹ヲ攀ルトキハ必、上下左右ヲ四顧スルモノナリ蓋、猿猴類ヲ捕ヘテ之ヲ養フニ其身外周邊ヲ四顧スル者ハ全ク非常ヲ警視スル爲ニ非スシテ恐クハ其元來ノ習

慣ニ係ル者ナラシニ統ヘテ猿猴類ハ夜間樹木ヲ  
握シテ睡臥セズ各樹木ノ枝又ニ粗ナル巢ヲ構  
ヘテ之ニ睡眠シ晝間暄暖ノ際モ亦茲ニ臥ス其  
食スル時限ハ温暖地方ニ住スル動物類ノ如ク  
多クハ朝暮ニ在ルナリ  
他洲ヨリ歐羅巴ニ齎シタル數種ノ猿猴類ヲ鑑  
ミテ以テ其一般ノ性質ヲ確定スルコト能ハズ  
但歐羅巴ニ齎來ル猿猴類ハ大概雜仔ナルヲ以  
テ馴致スルニ隨ヒ漸其性質ヲ變シ氣候又ハ他  
ノ原因ニ依テ遲鈍目虛弱トナシナリ又猿猴類

ヲ除クハ外第二目中ニ屬スル諸獼猴類ハ性質  
ヲ推シニ以テ猿猴類ノ性質ヲ考定セハ其狡猾  
ニシテ四手強壯齒ハ犬牙小如ク畏ル可クハ  
能ク害ヲ爲ス者タルヲ知ルニ足ラン今茲ニ猿  
猴類固有ノ性質ヲ盡ク確證セシニハ其徵ス  
キモノ甚少シ然レドモ猿類ハ皆馴致シテ以テ  
有益ノ用ニ供スルコト能ハス且人ニ類似スル  
所頗多シト雖モ動物鏡敏性ニ至リテハ大ニ他  
ノ諸動物ニ劣レルモノト確定セリ  
亞非利加猩一名黑猩此猩ハ身長大凡三尺其毛黑色

博物學 卷之四 甲

博物志卷之四

第一百十一圖



亞非利加猩

猩ハ靈慧ナルモノニシテ之ヲ教養スルコト甚  
易シ常ニ樹木ノ枝ヲ以テ小舎ノ如キモノヲ作  
リ其中ニ群居シ木挺或ハ石塊ヲ以テ能ク襲敵  
ヲ防禦ス又之ヲ馴致スルトキハ人ノ如ク直立

ニシテ疎ニ長毛ヲ生レ口及耳  
ハ甚大ナリ元來此猩ハ亞非利  
加ノ産ニシテ特ニギニア及  
「コンゴ」ノ地ニ多シ統ヘテ他ノ  
諸動物ニ比スレバ身體機關ノ  
構造甚人ニ類似スト云フ又此

シテ行步シ且跪坐スル者ナリ  
猩々此動物ハ記載ハ尚曖昧ニシテ屢亞非利  
加猩ト混淆スルコトアリ此物交趾安南ノ地及麻刺  
加及亞細亞ノ諸島ニ住ス其容貌ハ他ノ諸動物  
ニ比スレバ最モ人ニ近シトス然レドモ其體格  
ノ人ニ似タルコトハ亞非利加猩ニ如カズ或ハ  
纜ニ直立シテ步行シ得レトモ通常蹇者ノ如ク  
兩手ヲ地ニ附シ體ヲ引テ前進ス兩シテ其地上  
ヲ歩スルコトハ甚稀ニシテ多クハ樹上ニ棲息  
スルモノナリ

博物志卷之四  
亞非利加  
猩猩

千八百三十一年ニ猩猩ノ仔ヲ「ボル子オ」亞細亞島名ヨリ「ポストン」米國地名ニ齎シ二年間之ヲ展覽ニ供セシガ遂ニ死セタリ此猩猩ノ容貌ハ彼世人ニ接スルヲ好マザル處ノ黑人ニ酷ク類似セリ猩猩<sup>カクシ</sup>ハ猿猴ノ族ニシテ四手ヲ具有シ其臂長ク五指モ亦長クシテ相別レ盡ク爪ヲ具ヘ其體ノ毛色ハ稍赤褐ナリ常ニ果實ヲ食ヒ猛烈ナルコト實ニ驚愕ス可シ其身長ハ六尺乃至七尺ニ及ブモ往々之アリ然レドモ之ヲ馴致スルトキハ其性變レテ靜穩トナリ鬱々トシテ憂ヲ含ムノ形

狀ヲナスニ至ル又持子ニ倚リ或ハ杯ヲ把テ酒ヲ飲ミ或ハ自己ノ周邊ニアル事故ヲ擬似センムルコトヲ教フルハ甚容易ナリ昔時猿猴類ノ大ナル者一略定セシ「ボニゴ」ハ方今之ヲ猩猩ノ大ナルモノト確定セリ

猿猴ノ一種ナル「サイアマンダ」ハ「スマタラ」亞細亞島名ニ産ス其毛ハ稀疏ニシテ黒色ノ絨毛アリ日出日没ニハ毎ニ群集シテ相叫ビ其聲醜惡ニシテ聞クニ堪ヘザレドモ餘時ハ甚ク靜穩ナリト云フ又此「サイアマンダ」ハ頗ル其子ヲ眷愛シ且其身

第一百十二圖

動作猿猴



體ヲ注意シテ之ヲ洗ヒ或ハ摩シ或ハ乾ス等ノコトヲ爲ス者ナリ然レドモ之ヲ畜養スルハ其性鈍ニシテ人ト相馴レ親ムコトナシ

既ニ記載シタル猿猴類ノ外尚數種アリ即動作

猿猴及敏捷猿猴黑色猿猴等是ナリ

第二族

大猴類又狒々類

大猴類ハ尾短ク鼻長クレテ其性怒リ易シ之ヲ

以テ真猴類ト區別ス且大猴類ハ皆四手ヲ以テ

歩行シ體軀四手共ニ肥大ニレテ毛皮ハ濃褐色

第一百一圖

灰色大猴



類ニ似タリト雖モ他ノ部ハ多ク人ノ類似スル所アリ

大猴ノ種類ハ皆體格容貌甚美ナラズ恐クハ諸哺乳動物中ノ最醜ナル者ナラン假令其頭部ノ形狀ハ殺生肉食ノ動物

巴々利猴

巴々利猴 此種ハ四掌類中ニ在テ古來ヨリ歐  
 羅巴人ノ最モ熟知セルモノナリ蓋通俗之ヲ巴  
 々利猴ト稱スルハ其產地タル北亞非利加ヲ作  
 スモノニシテ多ク亞大蠟山亞非利加ノ山名ノ林中及  
 日巴拉太スバノ南境ジブラタルノ岩山ニ蕃息ス但此山ノ最  
 モ高キ所ハ海面ヨリ抽ツノコト一千四百三十  
 九尺ニシテ山側ノ各所ニハ歐羅巴ノ南部及亞  
 非利加ノ北部ニ生ズル草木類繁茂セリ  
 巴々利猴ハ日巴拉大ノ南邊ニ於テ亞非利加北  
 部ノ如クニ蕃息シ其大サモ亦相等シ蓋此種ヲ

産スル地方ハ亞非利加ノ外ニ在リテ日巴拉大  
 トシ亞非利加ノ中部ニ於テハ大沙漠ノ南方並  
 ニ東方ニ限レリ  
 ワンデルル 此種ハ巴々利猴ノ如ク古來ヨリ  
 歐羅巴人ノ熟知セルモノニ非  
 ス通俗之ヲ真猴類ニ屬スト雖  
 モ巴々利猴ノ如ク大猴類ニ屬  
 スルヲ以テ適當トナスワンデ  
 ルルハ印度地方及錫蘭印度ノ  
 ニ産ス其他東洋諸島ニモ亦恐ラクハ産スルモ



第一百十四圖

ワンデルル

傳刀

四

文部省

ノアニン

狗面大猴

此種ノ成長シタルモノハ其身長五

尺有餘ニ達シ性甚猛烈ニシテ害ヲナスモノヲ

リ其毛ハ一般ニ淡灰色ナレドモ之ヲ熟視スレ

バ一毛毎ニ帶黃淡黑色ノ小斑點アリテ全體ノ

毛色鮮明ナラス又面部ノ周邊ニ生スル毛ハ甚

長クシテ恰モ外套ノ如ク頸ヨリ肩ニ垂下セリ

此種ハ亞非利加ノ東部及亞非利加ノ對岸ナル

亞刺比亞ノ地ニ産シ特ニ樹木繁茂セル

亞刺比亞ノ丘陵ニ多ク栖息シテ丘陵内ノ加

非園ニ重害ヲ爲スコト多シ且亞刺比亞ノ南部

ヨリ波斯灣ニ至ルマテノ間ハ此種ノ棲息ニ最

モ適應セル土地多レト云フ又其牡ノ全ク成長

セルハ能ク其仇敵ヲ防禦スルコト甚畏ルヘク

或ハ人ヲ襲撃スルコトアリ然レドモ其實ハ襲

撃ノ念ヨリ生スルカ又ハ防禦ノ爲ナルカ未之

ヲ詳ニスルコト能ハス

豕面大猴ハ南亞米利加ニ産スルモノニレテ喜

望峰ノ屬地中ニ甚蕃息スル所アリ然レトモ平

常ハ山中ニ住シ果實熟スルノ時ニ非レバ平原

博物學 卷之四 猪面大猴

第百十五圖

猪面大猴



出ルコト稀ナリ其時期ニ至レバ則群ヲ聯ネ隊ヲ爲シ來リテ田園ノ果實ヲ竊掠ハ其來ルハ猛勇大胆ニシテ銃砲ヲ發フルニ非ザルヨリハ

容易ニ之ヲ退散モシムルコト能ハズ岩山ノ頂上ニ在ル猪面大猴ノ巢窩但此大猴、ヨリモ岩山ノ巢窩ヲ以テ甚堅固ナリル所處トナシ之ニ依頭スル者ハリヲ攻撃スレバ則其之ヲ防クノ術恰モ砲術未開ナル世ノ城ノ守ルガ如ク手ヲ勞シテ石ヲ抛擲スルニ頗

能ノ的中ス或容入投グルコト能ハサル處ノ大石ヲ轉落スルヤトテ此大猴ハ甚活潑ナル害ヲ爲スコト多ク他ノ大猴類ヨリモ大ニ嬉戯ヲナスト云フ嬉戯ノ狀ハ酷真猴類ニ似タルモノナリ猪面大猴ハ郊野ニ於テ農夫ノ餐食スルヲ見レバ竊ニ農夫ノ背後ニ至リ其食物ヲ掠奪シ之ヲ其巢窩ニ齎ラズシテ其處ニ止マリ以テ農夫ヲ戲弄シ退テ少シク隔タル場所ニ坐シ掠奪シタル食物ヲ人ニ見ヒシメンガ爲ニ之ヲ捧ダ安然



博 物 學 卷 四

大 猴 類

トシテ之ヲ食フト云フ此大猴ハ諸動物中ニテ  
最モ能ク事故ヲ擬似スルモノトス然レドモ此  
獸ニ就テノ說話中ニハ往々信ザルニ足ラザル  
コト多シ  
豕面大猴ハ他ノ大猴類ニ比スレバ其性頑ナ  
ズシテ嬉戲ヲナスコトモ亦多シ且之ヲ留養ス  
ルトキハ甚教ヘ易シ然レトモ年老コルトキハ  
之ヲ弄ス可ラス若之ヲ弄スレバ必害ヲナスモ  
ナリ持ニ其牡ハ害ヲ爲スコト甚シ又此大猴  
ハ一回其身ニ害ハ蒙ルバ之ヲ怨ムコト甚深ス

ア數目ヲ經ルトモ敢々遺忘ヤス其咬嚙ヲ爲  
スコト急突シテ且猛烈ナリ故ニ頗危險ナル  
モノトス然レバ此種ハクゲル氏ノ說ニ據レ  
バ上條ニ記載セシ種類ト一種相異リタルモノ  
ト定ム其之ヲ別種ト定ムル所以ノモノハ大  
其口ノ長トコト、尾ノ短キコト、他ノ大猴類  
ヨリモ性ノ兇暴ナルコト等ナリ而シテ此數條  
ニテハ未ダニドリル類一般ノ性質ヲ明瞭ニ  
シ且其他猴類ト全ク相異ナル所ヲ徵スルニ足

博 物 學 卷 四

四七

大 猴 類

ラス只其體格ト毛色ノ甚奇異ナルトヲ以テ別  
種ト爲ス者ナリ  
成長レタル「マンドリイル」ノ牡ハ其毛灰褐色ニ  
シテ體ノ上部ニ黄色ヲ帯ヒ腮ノ上ニ黄鬚アル  
ヲ尋常トス臉ク藍色ニシテ皺アリ鼻ハ赤色ニ  
シテ其尖ニ至ルハ深紅光澤アリ其他毛ヲ被ハ  
サル部分ハ多ク赤色ナリ腎ハ脾抵ハ其色青蓮  
ニシテ光澤アリ而シテ此腎ノ大ナルコトハ最  
モ著明ナリ蓋此種ハ遠般ノ種々非常ナル光澤  
色ヲ間錯シテ容貌恰モ扮色設彩ヲ極メテ修飾

シタルカ如キト其形狀ハ奇異ニシテ且猛烈ナ  
ルトニ依リ哺乳動物中ニ於テ最モ異相畸狼ノ  
モノトス

「マンドリイル」ハ諸大猴中ノ最大最奇ニシテ最  
恐怖スヘキモノナリ通常成長セルモノハ其身  
長殆人ト同クシテ甚強壯ナリ特ニ頭頸及體ノ  
上部ヲ最強壯トス

「ドリル」此種ハ「マンドリイル」ニ比スレハ身體  
頗小ニシテ甚猛烈ナラズ毛色ハ一般ニ黄灰色  
ニシテ面色黒ク其尾細短ナリ又此種ハ年齢ニ

從ヒテ毛色ニ著ルキ變化アリ其壯壯年ニ至シ  
ハ上部ノ毛色變レテ更ニ黒色ヲ増シ腮ハ光澤  
アル赤色ニ化ス  
尚其他大猴ノ種類數多アリ

第三族 真猴類又禺類

總ハテ四掌類中ニ屬スルモノハ猿猴類大猴類  
並ニ真猴ノ數族ナリ但狐猴ヲ四掌類ト爲スハ  
未妥當ナラス

真猴類猿猴類大猴類ハ大概林中ニ棲シ枝ヲ互  
リ樹ヲ踰ユルニ極メテ捷快ナリ常ニ液汁若ク

ハ粉質多ク果實ヲ採テ之ヲ食ヒ葉ヲ食スル  
コトナシ此果實ハ熱帶地方ニ夥シク産スルモ  
ノナリ又好エテ蟲類ヲ食フ故ニ四掌類ハ其毛  
皮中ニ生ズル處ノ蟲類ヲ互ニ搜索シ之ヲ捕ヘ  
テ食フ時其陋態見ルニ堪ヘス  
四掌類ハ皆枝ヲ傳ハリ樹ヲ踰ユルコト極メテ  
輕捷容易ナルコト是特別ノ天賦ニシテ即其體  
格醜崎ナル所以ナリ又眼目ノ突出セルト四手  
及容貌ノ概略人ニ類似セルトニ依リ渠ヲ見ル  
人ハ頗渠ヲ厭フノ思念ヲ增加ス可シ蓋人ハ醜

キ物ヲ見ルヲ好マザルノ性アレバナリ通常世  
俗ニ四掌類ハ醜陋ニレテ一般ニ人ノ厭惡スヘ  
キモノ、一種ト考定セル故ニ皆渠ノ容貌ヲ厭  
フナリ  
四掌類ハ狀貌此ノ如ク醜陋ニレテ人ノ厭惡ス  
ルモノナレドモ其性極メテ敏捷活潑ナルヲ以  
テ人ノ厭惡スヘキ思ヲ減少フ故ニ獸苑中ニ在  
リテハ能ク人心ヲ慰メ持ニ兒童ヲ喜ハシム是  
ヲ以テ真猴類ノ園アル處ニハ人常ニ群集ヲ爲  
スモシキル真猴類ハ其性甚嚴肅ナレドモ大猴類ハ容

貌極メ醜陋ニ可ク其習慣ニハ快カラサキコ其  
多クシテ性極メテ兇暴ナリ故ニ世人四掌類ヲ  
見テ差其意ニ適フベキモノハ唯真猴類ノミナ  
リ其人意ニ適スル所以ハ渠ノ容貌ヨリ生スル  
ニ非ズシテ其行爲ト運動ノ活潑ナルト其性ノ  
狡猾ナルト其母ノ兒子ヲ慈愛スル深情アルト  
其同類中互ニ相親昵スル情アルトニ依リテ生  
スルナリ真猴類ヲ我合衆國ノ如キ氣候寒冷ノ  
地方ニ携ヘ來リ展覽ニ供スルニ吾輩ノ温和ト  
稱スル氣候ハ熱帶地方ノ林中ニ産セル真猴ノ

兒子ニ在リテハ其產地ノ冬日ヨリモ頗ル嚴寒  
 トス故ニ真猴ニ頭相會スレハ互ニ身體ヲ懷抱  
 シテ相煖メ又其兒子アルモノハ之ヲ牝牝ノ體  
 間ニ擁シテ以テ相煖ムルナリ斯ク互ニ注意ス  
 ルコトハ動物中ニ在リテ最善ナルモノ、一ト  
 ス  
 東洋諸島亞非利加熱帶地方及亞米利加地方ノ  
 林中ハ真猴ノ棲息ニ適スル地ナリ此等ノ地方  
 ニ棲息スル真猴ヲ以テ其自然ノ性ニ適スル  
 純粹ノ標準トナス其故ハ之ヲ歐羅巴ノ如キ寒

冷ノ地方ニ携ヘ行クトキハ氣候及他ノ原因ニ  
 依リテ其性質モ亦隨ヒテ變易スレバナリ  
 熱帶地方ノ林中ニハ真猴類ノ數屬アリテ其數  
 極メテ多ク皆能ク真猴固有ノ性質ヲ存セリ蓋  
 真猴類ハ平野ニ棲息スル者甚稀ナリ其故ハ身  
 體機關ノ構造平野ニ棲息シ食ヲ索ムルニ適セザ  
 レバナリ凡地球ニテ真猴類ノ棲息セル地方  
 數多アレドモ其主眼ナル者ハ三處ナリ此三處  
 ノ真猴類互ニ相異リテ其種類中更ニ司一ナル  
 モノナレ

右ニ述ヘタル三處トハ亞細亞ノ南東及其近傍諸島亞非利加ノ西南亞米利加熱帶地方ノ林中等ヲ云フナリ此三所ノ真猴類ハ其容貌互ニ相異ナレリ故ニ同大陸中ニ産スルモノハ其習慣及機關至要ノ部分等殆皆同一ニシテ屬ノ差違ヲ生ズルニ至ラズ然レドモ東大陸ニ産スルモノト西大陸ニ産スルモノトヲ比較スルトキハ屬ノ差違アルナリ吾輩今茲ニ地理ニ從ヒ真猴類ヲ二箇ニ大別ス第一東大陸真猴類第二西大陸真猴類是ナリ東

大陸ノ真猴類ハ西大陸ノ真猴類ニモ非ズ又猿類ニモ非ズ大猴類ニモ非ズ其中間ノモノタリ吾輩ハ通常博物大家ノ說ニ從ヒ真猴類屬ノ名稱ヲ用フルナリ

東大陸真猴類

東大陸ノ真猴類ハ種類極メテ夥多ナリ其運動スルハ甚輕捷ニシテ尾ノ長キモノ多シ然レドモ其尾ハ皆卷纏スベキモノニ非ズ  
赤色猴 此種類ハ古來ヨリ人ニ知ラレタル者  
一ニシテ其頭ハ圓ク眉毛ノ生ズル處隆起セ

鳥類  
五二  
鳥類

ズ眼ノ周圍ハ滑ニシテ鼻ハ平扁耳ハ頗大ナリ  
 口内ニ齒ノ外部ニ方リテ左右ノ頰嚙アリ尾ハ  
 其體軀ヨリモ長キモノタリ赤色猴ハ亞非利加  
ノ産ニシテセ子ガノ亞非利加ノ林中ニ棲ニ甚  
 敏捷ナル小キ動物ナリ其身ノ長サ大約一尺六  
 七寸ニシテ其尾ノ長サハ殆體軀ト相等ニク體  
 ノ上部ハ甚光澤アリテ帶赤色ノ魔斑アリ  
 變性猴 此種類ハ狀貌ノ醜ナルコト他ノ諸動  
 物ニ過キ毛皮中ニ存スル斑點ノ色甚奇ニシテ  
 玩賞ス可キモノナリ且其產地ハ未分明ナラズ

種々ノ説アリテ眞ニ確定シ難シトス恐クハ亞  
 非利加ノ産ニシテ亞大蠟山中ニ棲息スルモノ  
 ト略定セリ然レドモ今日ニ至ルマテ歐羅巴人  
 ハ此山中ニ於テ此種類ヲ見シト云フヲ聞カズ  
ダイアナ即バラチンモンキリンミス氏  
 ノ此種類ヲダイアナト名ケシ所以ハ額上ニ新  
 月形ノ白點アリテ昔時人ノ敬禮マシ獵人守護  
 ノ女神ダイアナト唱フル神像ノ額上ニアル新  
 月形ト相類似セムヲ以テナリ且此種類ノ形狀  
 ハ前ノ二類ノモノト能ク相似テ其產地モ亦同

十  
九

ク亞非利加ナレドモ此種多ク、赤道近傍ノ林中ニ棲ムモノナリ體軀ノ長サハ大凡一尺五寸ニシテ尾ハ大凡二尺アリ全體ノ毛色ハ黑白相混合セルモノニシテ頭頸ノ邊ニ至レバ漸々灰色ニ變レ下體ノ部モ亦然リ

イニテルノスモンキト此種類印度ニ在リテハ甚尋常ノモノ其能ク人ヲ知ル處ナレドモ歐羅巴ニ於テハ之ヲ知ル者甚少レバン子ト氏曰此種類ノ幼稚ナル者ヲ捕ヘテ之ヲ養フトキハ容易キ馴レ親レ種々ノ嬉戲ヲ爲スコト

第百十六圖



イニテルノスモンキ

甚敏捷ナレドモ平常ハ溫和ニシテ且、謹慎ナリ然レトモ漸々成長スルニ從ヒ其嬉戲ヲ爲スコト大ニ減シ人ニ依賴スルノ心變シテ却テ人ヲ猜疑シ其敏捷ナルコトモ亦息<sup>ガ</sup>虚浮<sup>ウツラ</sup>ニシテ知覺ナキモノ、如シ而シテ曩ノ伶俐ナリレコトニ負キテ全ク自己ノ暴力ヲ恃ミ終ニ兇暴ヲ恣ニシテ其害ヲ爲スコト幼時ヨリ山野ニ在リモ處ノ真猴類ト異ナラザルニ至ル其體軀ノ上部

博物學

卷四

五

文部省



ハ一様ナル灰色ニシテ其尾ハ稍黒色ヲ帯ヒタ  
 ル灰褐色ナリ且尾ノ大サ一恙ニシテ其端ニ至  
 リテモ尖銳ナラズ唯長毛ヲ叢生スルノニニシ  
 ラ流蘇狀ヲ爲サズ  
 又體軀ノ下部ハ白色中ニ稍黒色ト黄色トヲ帯  
 ヒテ其下臂手掌及足ハ淡黒色ナリ又四手ノ指  
 ハ甚長クシテ拇ハ頗短ク面ハ黒色トシテ稍青  
 蓮色ヲ帯ヒ長キ黒色ノ剛毛アリテ眉毛上ノ蓋  
 ヘリ此長毛ハ少シク上部ニ向ヒテ前面ニ突出  
 ス

交趾猴 此種類ハ其容貌諸真猴中ニ在リテ最

第百十七圖



交趾猴

モ奇異ニシテ恰モ百種ノ品料ニ  
 テ繡裁セシ衣服ヲ着セル人ニ仿  
 彿タリ且此種類ハ最初交趾ヨリ  
 歐羅巴洲ニ齎シ、以來洲人始メ  
 テ之ヲ知リシ故ニ交趾猴ト名ヅ

ケレ者ナルベレ

西大陸真猴類

上條ニ記セシ東大陸ニ屬スルモノ、外尚種々  
 ノ數族アレドモ今茲ニ亞米利加真猴類ノ數種

ノミヲ記ナシ此種ハ皆東大陸ノ者ニ比スレバ  
 齧齒四個彼ヨリ多シ之ヲ分チテ數個ト爲スコ  
 ト左ノ如シ

第一轉猴類 吼猴及蜘蛛猴等

第二跳猴類即地猴類

第三斑猴類等是ナリ

轉猴類

此真猴類ハ皆卷纏スベキ長尾アリテ其端ヲ樹  
 枝ニ卷キ倒懸シテ空ニ翻ル等ノコトヲ作スモ  
 ナリ蓋此尾ハ極メテ強壯ニシテ其之ヲ使用

第百十八圖



轉猴

米利加ノ各所ニ群集セリ

吼猴 此動物ハ大聲ヲ發スルガ故ニ高聲者ノ  
 別稱アル者ニシテ自カラ一定シタル屬ヲ成セ  
 リ四手ノ長ハ適宜ニシテ皆五指ヲ具有ス而シ

スルニ猶臂ノ指ヲ使  
 ガ如ク樹木ヲ攀ヂテ枝  
 ヨリ枝ヲ經過スルニ大  
 ナル扶助ヲ爲ス者ナリ  
 又轉猴ノ種類ハ其數  
 甚タ夥多ニシテ南亞

傳 初 卷 五 六

前二手ノ拇ハ其長ヤ大約食指ノ半ナリ且其  
 機關構造中ノ最モ著ルキ者ハ舌骨ニシテ此構  
 造ニ大聲ヲ發スベキ機關ヲ修成セリ  
 此奇異ナル大聲ヲ發スル機關但此機ハ他諸動物ノ音聲ノ發スル  
 相異レリハ何的ノ用ヲ爲スカ未之ヲ確定スル  
 コト能ハスト雖モ哀悼ナル音聲ヲ發スルノ機  
 タルコト明ナリ且此機ヲ具有セル動物ハ亞米  
 利加産ノ真猴類中ニテハ最大ノ者ナレドモ未  
 真ノ大動物ト爲スニ足ラズ然レドモ其聲タル  
 獅子ノ吼聲ヨリ大ニレテ二里四方ニ達シ其音

調ノ大且烈ナルニ因リテ知ラレル人ハ此猴ノ  
 棲息スル林中ヲ最モ畏ルルキ野獸ノ群居セル  
 地方ナリト想フベシ又吼候ハ其讐敵ヲ防クニ  
 彼恐怖スベキ肉食獸トハ其法異リテ人ノ襲メ  
 ニモ枯枝ヲ折テ棍ト爲レ或ハ不潔物ヲ拋擲ス  
 ル等ハコトナリ此者ハ南亞米利加ノ諸處ニ棲  
 息シテ其數極メテ多シ「フムボルト」氏南亞米利  
 加ノ某林中ニ棲息セル者ヲ計ルニ三里四方ノ  
 中ニ其數二千ヨリ少カラザリレト云フ  
 赤色吼猴 此種類ハ「フムボルト」氏ノ「モノコロ」

博物學 卷四 五十七 動物學

ラドト稱スル者ニテ通常之ヲ稱シテ赤色猴ト  
名ヅク其異殊ナル性質ノ一ハ面部ニ毛ナキコ  
トナリ

熊狀吼猴 ベルホルツグモ 此動物ハ其產地ノ名ヲ取リ「アラガ  
ト」ト呼フ者ニレテ赤色吼猴ト混マルコト往

々之ヲ然レドモ全ク別種類ノ者ニレテ赤色  
吼猴ハ比スレバ多ク山地ニ棲息スル者ナリ且

「フムホルト」氏ハ氣候温和ノ地方或ハ寒冷地方  
ノ高處ニ於テ此種類ノ數多棲息セルヲ見レコ

ト往々之アリト云フ此種類モ又大ナル叫聲ヲ

發ス特ニ雨天ノ前ニ多ク故ニ之ヲ稱シテ粗略

ナル一種晴雨儀ト云フモ亦可ナリ而シテ此

種類ノ行狀ハ頗嚴肅ナルモノナリ

金尾吼猴 此種類ハ赤色吼猴ト相混ズ然レド

モ別種類ノ者ニレテ第一ニ其毛色異ナリ尾ノ

下半及肩上ヨリ腰部マデハ甚光澤アル黄金色

ナリ而シテ尾ノ上半ハ其光澤アル葡萄酒色ナ

リ又頭ト四手ハ其色甚濃クシテ四手ニ至レバ

紫色ニ變ズ故ニ頭ト手トノ同色ナルヲ以テ容

易ニ赤色吼猴ト區別レ得可シ又其他ノ部分ノ

色モ自異ナル者ナリ

褐色吼猴 ブラジル 此種類ハ伯西爾ニ産スルモノニレテ之ヲ知ル者甚少レ

赤手吼猴 ブラジル 此種類ハ全體黒色ニレテ其四手及尾ノ下半ハミ茶褐色ナリ

黒黄尾吼猴 ブラジル 此種類ハ第一ニ其毛色ヲ以テ區別得ベキ者ニレテ全體ハ色ハ帯黒褐色ナリ

尾ハ黄色ハ線アリテ面部ハ帯黄褐色且毛ノ被

ルコト甚微ナリ 此他尚數多アリト雖モ今之ヲ枚

舉スルコトヲ要セス故ニ吾輩ハ他ノサバジコ

ウニ屬スル處ノ種類ノミヲ左ニ記載スベシ

「フムボルド、モンキ」此種類ハ彼ノ聰明勇敢

トル「フムボルド」氏曾テ阿利挪加河ノ近傍ニ於テ發見シタル者ニレテ頗大ナル動物ノ一ナリ

其身長ハ頭ヨリ尾ニ至ルマテ大凡二尺三寸アリテ其尾ハ身長ヨリモ稍長シト云フ

「ダリリン、モンキ」此種類ハ前ニ記載セル者ニ比スレバ頗小ニシテ伯西爾ニ産ス且體軀ノ上部及四手ノ表面ハ灰色ヲ帯ビタル黄色ナリ

「スッペルモンキ」此種類ハ此屬中及其他ノ屬ニ比スレバ歐羅巴人ノ能ク認知セルモノナリ其容貌ハ真猴類中ニテ頗美ナリ蓋此種類ハ毛色鮮明ナラズト雖尺頗美麗ノ小動物ト云テ可ナリ又其身長ハ鼻ヨリ尾マデ大凡一尺アリ尾ハ一尺ヨリ稍長クシテ體軀ノ上部ハ稍光澤アル褐色ナリ

白面轉猴ホリモンキ此種類ハ大前記記載レタル「スッペルモンキ」ト相等シ然レドモ毛色ハ相異ニレテ額及眼ノ周邊ハ純白ナリ故ニ之ヲ白面ノ猴ト名ヅク全體ノ毛ハ稍灰色ヲ帶ビタル黄色レドモ脊ノ中部ニ至レバ其色稍薄ク體ノ下部ハ淡黄色ナリ「アムボルト」氏南亞米利加ノ上流及其近傍ノ林中ニ於テ此種類ノ群集棲息スルヲ見タリト云フ又此種ハ人ニ近接ストモ絶エテ恐怖セス亞米利加ノ土人及歐羅巴人ハ羊仔ノ如ク之ヲ家ニ畜養ス

有角轉猴ホルントサバジヨウ此種ハ其小ナル者モ尚白面轉猴ヨリ大ナリ背毛ハ帶黒ノ葡萄酒色ニシテ脇腋ノ光澤アル葡萄酒色ナリ又其腹ハ赤色光澤アリ

テ頭手及尾ハ褐色ナリ

蜘蛛猴 此動物ハ歪阿那及伯西爾ニ棲息スル者ニシテ其種類甚多ニ常ニ

第百十九圖



蜘蛛猴

ハ「スパイドル、モンキ」及「コーチ、モンキ」等アリ

果實ヲ食ヒ卷纏スベキ尾アルヲ以テ容易ニ此枝ヨリ彼枝ニ移ルコト極メテ輕捷ナリ蓋此尾ハ手ノ如キ用ヲ成シテ其機巧ナルコト恰七象ノ鼻端ノ如シ又此種類中ニ

リ此猴ヲスパイドル、モンキト名ツル所所以ハ其手ノ長クシテ柔軟瘦瘠ナルコト蜘蛛ノ形等ニ似タルニ因リテナリ

跳猴

此猴ハ亞米利加ニ産スル地ニ棲ム猴ニシテ數

第百二十圖



跳猴

名ノ博物家之ヲ被毛有尾ノサバジヨウト混レタレドモ全ク別種類ノ者ナリ且尾ノサバジヨウヨリモ頗長キモノ往々之アリ此尾ハ決シテ卷纏スベキ

者ニアラナレドモ總ヘテ長尾ハ自在ニ之ヲ屈伸運動シ得ルヲ以テ此猴モ亦必此尾ヲ屈伸運動シ得ルナラン又「サゴイン」中ニハ其長尾ヲ身體并ニ樹木等ニ卷クモノアリト雖モ決シテ「サバシヨウ」ノ如ク之ヲ樹枝ニ卷キ倒懸シテ空ニ翻リ或ハ手ノ如ク之ヲ使用スルコト能ハズ

此猴ノ體軀ハ長細ニシテ稍貂鼠ニ類似シ毛ハ柔軟ニシテ尾ハ全ク毛ヲ被レリ指ノ爪ハ鳥爪ノ如キ鉤狀ニ非ガレドモ其中間ハ弓形ニシテ

狭ク稍尖銳ナルモノナリ又「サゴイン」及之ト同レ習慣ノ動物ハ潛ニ食物ヲ竊掠スルモノアリ且此種ハ林中ニ棲息スル動物ノ如ク敏捷ナンドモ多クハ喬林ニ棲マスレテ晝間ハ矮小ナル樹林或ハ岩窟ノ中ニ潜伏ス然ルニ上條既ニ記載セル真猴類ハ大概林中ニ棲息スルモノナルニ此猴ノミ地中ニ棲息セル故ヲ以テ之ヲ「オビゼ」即地棲猴ト名ヅク

栗鼠猴義 此猴ハ諸真猴類中ニテ毛色最美ナル者ノ一ナリ故ニ其名稱數多アリ或人ハ之ヲ



「オールラ、サバジヨクト名グケ「ブーホン」氏ハ之  
ヲ「サイ」ト稱ス蓋此名歪阿那前出ニ住スル亞  
米利加土人ニ依リテ命ラレタルモノト考定ス  
又「フムボル」氏ハ阿利那加ノ河岸ニ在リテ此  
猴ヲ總稱シテ「チ」ト云ヘルコトヲ發明セリ  
又或人ハ「サイ」ト「チ」トヲ別種類ノチノ  
トレテ記載セリト云フ  
又栗鼠猴ハ體軀甚小ナレドモ極メテ敏捷ニレ  
テ變ス可キモノナリ體ノ長ハ大凡九寸ニレテ  
尾ハ一尺一寸乃至一尺二寸アリ面ハ肉色口ハ

淡黒色ナリ體軀上部ノ毛色ハ帶黄灰色  
其下部ハ淡黒ナリ耳輪軟骨ノ凹處ニ生ズル長  
毛モ亦淡黒色ナリ  
此猴ノ情ヲ動スコト甚容易ニレテ喜情ヨリ哀  
情ニ轉移スルコト恰モ人ノ小兒ニ於ルガ如ク  
若強ク哀情ニ感動スレバ涕淚眼中ニ滿ツ且此  
猴ハ尋常ノ事件ニ於テ輒怒ラザルモノト見ユ  
天稟ノ性質ハ相共ニ群集シテ棲息シ多クハ蟲  
類ヲ食ヒ亦果實及矮小ナル草木ノ芽ヲ食フ此  
猴ハ大ナル動物ニ向ヒテ全ク害ヲ爲サズ

博物志 卷四 空 文部省

ト、其美麗ニシテ快活ナルコト、  
 因リテ好  
 ベテ之ヲ畜養スルモノ多レト云フ  
 栗鼠猴ノ蟲類ヲ擒ルトキ其輕捷ナルコト實ニ  
 驚クベシ且其嗜好スル蟲類ノ形狀ヲ能ク認知  
 シテ假令紙上ニ畫ケル黒色ノ蟲狀ト雖モ尚能  
 ク之ヲ攫ム者ナリ又同ジ紙上ニ司大ノ蟲類ア  
 リトモ其嗜好ヒザル者ハ決シテ之ニ觸ルルハ  
 ナレ故ニ「フムボル」ト氏ハ此猴ヲ稱シテ蟲書  
 ノ鑿定者ト爲セリ斯ク此猴ノ蟲類ヲ能ク審判  
 スルコトハ尙未ダ喫驚スルニ足ラズ蓋蟲類ヲ坑

ト之ヲ攫食スル諸動物特ニ夜間餌食ノ動物  
 ハ眼光甚強健ニシテ物ノ映像ヲ大ナラシムレ  
 ノ視力アリ故ニ遠方ノ物體ヲモ能ク諦視スル  
 モノトナリ  
 又栗鼠猴ハ直ニ口ヲ以テ食物ヲ採ルコトアリ  
 或ハ手ヲ以テ之ヲ採ルコトアリ然レドモ手ヲ  
 用ヰルコト多シ其甚小ナル手ヲ以テ速ニ飛去  
 スル所ノ蟲類ヲ捕フルニ實ニ妙巧駭奇ト謂フ  
 可レ此ノ如ク手ヲ以テ甚巧ニ蠅ノ羽ヲ握テ  
 能ク之ヲ捕ヘ得ル者他獸ニハ恐ラクハナカル

寡婦猴義 此種類ハ栗鼠猴ト殆同地方ニ産ス

毛ハ柔軟ニシテ胸ノ前面ヲ除クノ外光澤アル黒色ナリ前手ハ白色ニシテ面ハ白色中ニ稍

藍色ヲ帯ビ眼ノ周邊ハ深藍色ノ二線ヲ轉回セ

ルモノナリ  
假面猴義 此種類ハ伯西爾ニ産スル最野ニシ

テ冬方ハ大河岸上ノ林中ニ棲息ス體軀ハ前ニ記載セラル二者ヨリ能ク大ニテ其全長ハ凡

五寸ナリ蓋其體由頭尾間ヲ長ハ大抵皆相等

ニシテ  
覆積猴義 此種類モ亦伯西爾ニ産スレテ邦内ノ西部ニ多シ體軀ハ前者ヨリ大ニシテ大抵栗鼠猴

ノ二倍ナリ

頸環猴義 此種類ハ伯西爾ニ産スルモノト考定ス然レドモ其棲息スル景況ハ絶エテ知ル者

ナシ  
モロコ猴 此猴ハ伯西爾ニ産スレテ其種類極

テ稀少ナリ體ハ大サハ大抵栗鼠猴ノ二倍ナリ

コロコウリ夜猴 此種類ハ形體毛色及毛ノ  
 組織ニ於テ亞米利加熱帶地方ニ産スル諸猴類  
 中ノ最モ奇異ナルモノトス其他各地ニ産スル  
 猴類中ニテモ亦最奇ノモノタリ其身長ハ大凡  
 二尺許體ノ上部ハ固有ノ灰色ニシテ頭毛ハ黑  
 白兩色ノ環アリ  
 此動物ハ晝間ノ日光及日熱ニ堪ヘ難ク故ニ晝  
 ハ全ク睡眠シテ過シ其睡眠ノ狀甚奇ナリ先  
 後手ノ兩掌ヲ腹上ニ置キ此上ニ前手ノ兩掌ヲ置  
 キ務メテ頸骨ヲ曲ケ頸ヲ前手ノ間ニ挿メテ頭

ヲ俯下ス斯ク奇異ナル形狀ヲ爲スハ其脊骨中  
 ニ存スル彈力ヲ保護スル爲ナラニ蓋此脊骨ニ  
 彈力ヲ有スルコトハ夜間動作ヲ爲スニ於テ最  
 緊要ナルモノト見ユ且此動物ノ長尾ハ大概卷  
 纏ス可キモノニ非ス然レドモ容易ニ之ヲ屈曲  
 ス可キモノナリ  
 晝間此動物ノ睡眠スル所ハ樹木ノ空窩或ハ出  
 入便利ナル坑孔ナリ蓋此等ノ孔窩ハ皆此動物  
 ノ自ラ掘リタルモノニ非ズ然レドモ熱帶地方  
 ノ林中ニハ樹木ヲ耗蝕スル蟲類數多アリテ林

木空窩ヲ穿ツコト甚夥多ナリト云フ  
 又此動物ヲ捕ハ置クトキハ能ク麵包果實及乳  
 汁ヲ食フ然レドモ其林中ニ棲息スルトキハ好  
 ミテ津液多キ果實及甘キ植物ヲ食フモノナリ  
 叫號夜猴 此種類ノ名稱ハ夜間叫聲ヲ發スル  
 因リテ名ヅケレモノナリ  
 今前ニ記載レタル下月如ウリ夜猴モ亦夜間  
 叫聲ヲ發スルナリハ其間違ハルモ其聲  
 此猴ノ身體上部ハ前種ヨリ赤色ヲ帶ルル  
 濃ナリト云フ

斑猴ノ類

此猴ハ頭顱圓カ口知シ長尾ニレテ毛ヲ破レリ  
 四掌ハ鉤狀ノ爪ヲ具ヘ其樹木  
 ヲ攀ルニ四手ヲ以テレ諸物ヲ  
 捉ルニハ爪ヲ以テス其運動ス  
 ル景況及容貌ハ他ノ諸猴類ヨ  
 リモ甚衆鼠猴ニ肖タルモノナ  
 リ

第二百一十一圖



斑猴  
オイスチチ

斑條猴即尋常斑猴 此種類ハ奇異ノ小動物  
 却テ稀少ナル者ニ非ス頗可憐ニレテ畜

養レ易レ而レテ此種ハ衆人ノ能ク認知セルモ  
 ノニテ之ヲ愛スル者亦多シ身長ハ大凡八寸尾  
 ハ一尺一寸ナリ此尾ハ甚細ケレドモ毛ヲ被ル  
 ガ爲ニ眞ノ大サヨリ頗大ク見ユルナリ又體ノ  
 上部ハ全ク長毛ヲ被リテ其毛ハ一莖毎ニ毛根  
 ニ環狀ノ白色有リテ次ハ黄色次ハ黑色又其次  
 ハ白色ナリ斯ク數色ヲ雜フルガ爲ニ全體ノ毛  
 色ヲンテ灰色ヲ帶ビタル黄色ヲ爲サレム  
 白唇「カマリシ」此種類ハ獼猴類中ノ最小ナル  
 者ニイテ往々耳アル「ジヤクチ」ト名ヅカレヒ

ノナリ又之ヲ獅子「タマリシ」ト稱ス安「南亞的「米利斯  
 加「山名」ノ東部ニ産レテ身長ハ七寸五分尾長ハ  
 八寸ナリ亞米利加ノ土人ハ之ヲ籠中ニ馴養ス  
 ル者多シ其之ヲ養ヒ置クトキハ栗鼠猴ノ如ク  
 輕捷ニレシ沈着ナラザルモノナリ此猴激怒ス  
 ルトキハ背脊ヲ突起シ鬃毛ヲ豎立テ恰ヒ自  
 強大ナル獅子ナリト自負スル者ノ如レ故ニ之  
 ヲ獅子猴ト名ヅク  
 狐猴「ライオン、モキ」此動物ハ屢「ホウケン、ウツト、モキ」狐鼻猴「義」ト稱スルモノナリ  
 其性敏捷ニシテ果實ヲ食ヒ馬達加斯「亞非利加ノ島名

厚勿 卷四 六日 突

ニ産殖ス此種ハ真猴類ニ肖タルモノヲ具レテ身  
 長ハ三尺ナリ馬達モシキ加斯人ハ犬ノ如ク之ヲ馴致  
 スト云フ又印度ニ産スル「スロウ、ロリス」即「ベ  
 ン、スロット」ハ此屬中ニアリ

榊原芳野 校

北瓜有卿 圖

具氏博物學卷之四終

